作品目録・第２部内容編

＝ ア ＝

灯の進化

［解　説］

＊『映画検閲時報』第12巻p461によると、本作品は昭和６年７月29日に横浜シネマ商会製作（大阪毎日新聞社検閲申請）として、「電信電鈴電話」とともに検閲を受けている。同年８月24日に検閲を受けている「電灯」と比較すると、巻数、フィルム長が一致する他、内容的にも同一のテーマを扱っており、同一作品の可能性がある。

あひるの子

［梗　概］

＊「アヒルの卵の中に混って生まれた白鳥の子が、いろいろ迫害を受ける。ある別荘にいる猫と鶏の友情に助けられ成長するが、秋になると自分を生んでくれた親のことを想像する。」（『日本ｱﾆﾒｰｼｮﾝ映画史』P206）

＊「美しい白鳥になった醜いあひるの子が、綺麗な別荘のお池で皆から愛撫せられる。それでも昔の掘割で育てゝくれた『あひる』のお母さんを恋ひ慕った。」（『教映ﾆｭｰｽ』24号p10 ）

［解　説］

＊「アンデルセン童話の動画化で外国の話だが、語りもキャラクターも完全に日本調になっている。後にトーキー版が製作されたが、トーキーでは前後にアンデルセンの本を読む少女の実写が加えられ、中間のタイトル文字が抜かれている。」（『日本ｱﾆﾒｰｼｮﾝ映画史』p206）

アマゾン地方

［解　説］

＊「以上三篇は、横浜シネマ商会特作映画『南十字星は招く』の抜萃篇で、前号に紹介した『麗しの国智利』『ラプラタの沃野アルゼンチン』と共、南米五部作を形成するものである。」（編者注：三篇とは「神戸からサントス迄」「農民の天国サンパウロ」「アマゾン地方」を指す。）（『教映ﾆｭｰｽ』33号p23 ）

ある雪の夜の話

［梗　概］

＊「雪の夜の楽しい団欒に、お父さんの話はいつとなく郷里北国の思出に移って美しい情景の数々が汲めども尽きぬ泉のやうに繰り拡げられて行く。本映画も文章教授の背景描出として用ひてよいものである。」（『教映ﾆｭｰｽ』24号p9）

＝ イ ＝

いかとたこ

［梗　概］

＊「いかとたこの海中に於ける生活の状態、各種捕獲法及するめの製造等を説明してゐる。」（『教映ﾆｭｰｽ』20号p18 ）

居酒屋の一夜

［梗　概］

＊「居酒屋でふるまい酒に酔いつぶれた浮浪者。昼間町で拾った『沈没船引揚げ資金募集』の広告チラシが気になっていて、その夢を見た。海底深く沈没船を探しに出かける。途中一人の武士に怪しまれるが、お互い日本人と判り、一緒に宝物探しに。沈没船“モノナイ号”には敵国の兵士が番をし近づけない。一計を考え，味方の武士を先に船に乗り込ませ、決闘中に宝物を奪おうとしたが、欲が出て一人占めにしようとする。武士に見つかり首筋を抑えられ、目が覚めた。武士と思ったのは居酒屋の親父でもう看板だったのだ。浮浪者の哀感がよく出ていた。」（『日本アニメーション映画史』p217）

［解　説］

＊「昭和十年五月、キネマ旬報創刊十五周年記念に懸賞募集された“トーキー漫画ストーリー”当選第一作を横浜シネマが動画化したもの。（中略）また横シネで数多くの動画を作った村田安司は独立して自分のプロを持つため、この作品を最後に横シネを辞めることになる。『居酒屋の一夜』のサウンドは二種類あり、再版の音楽は三木鶏郎とそのグループの演奏。海底で浮浪者がドジョウすくいを踊るシーンの歌が、再版では“何時になったら家が建つ、私いや！僕もいや！みんな戦争が悪いのよ”と終戦直後の感じになっている。」（『日本アニメーション映画史』p217）

＝　ウ　＝

ウィンター・スポーツ

［梗　概］

＊「冬のスポーツ、スキー、スケート、アイスホッケーなどの壮快な実況を撮影編輯したもので、一般人にもよろこばれよう。」（『大海フィルム・ライブラリー目録』p61）

鵜飼

［梗　概］

＊「金華山の緑、長良の清流、涼風に棹さす遊船篝火の影に活躍する鵜の群れなど、鵜飼の実況を紹介したもの。」（『教映ニュース』22号p16）

うにとなまこ

［梗　概］

＊「うに、なまこ及びひとでの自然なる棲息状態を撮し、その解剖的研究に進み、利用方面にまで及んでゐる。」（『教映ニュース』20号p18）

＊「内容の大体を知るためにタイトルを列記しよう。　○うには海中の岩の間などにすむ　○体は球形のかたい殻でおほはれてゐる　○（画中文字）殻　○表面に多くの細長いかたいとげがある　○体の下面の中央に口がある　○（画中文字）殻、腸、口　○（同）口　○口には五つの歯がある　○（画中文字）口、歯　○とげの間には多くの糸のやうな細いやはらかい足がある　○うには足をのばしたり、ちゞめたりしてその先で岩などに吸着て止ったり、はったりする　○うにの卵を集め塩を加へて貯へたものを雲丹といひ食用にする　○（画中文字）雲丹　○（同）殻、腸、口、卵　○なまこも海中の岩の間などにすむ　○体はやはらか

くて円い長い形をしてゐる　○体の下面にはうにの足に似た多くの細い足があってこれではふ　○体の一端に口がある　○口の周囲に多くのやはらかい指のやうなものがある。これで食物を取る　○食用なまこ　○肉は生のまゝ食用になる　○内臓を塩漬にしたものをこのわたといひ食用にする　○内臓をのぞき煮て乾かしたものをいりこといひ、食用として多く支那に輸出する　○うに、なまこの仲間にひとでがある。これは食べられないが肥料になる」（『活映』64輯p42 ）

［解　説］

＊「元来がこれは非常に動きの少いものを活映化したものであって、それだけにまた別の興味をそゝるかも知れないが『うに』および『なまこ』の自然棲息状態を出来るだけ動的に現すことに大きな努力がはらわれてゐる。そして細部の紹介に当っては実写と線画とを巧に配合して解剖的研究といった具合に取扱はれてをり、その線画も従来のやり方とはちょっと異ってゐる。（中略）線画の特殊の使ひ方といふのは、つまり動いてゐる画面の一コマを必要な個所において止写にして、それに文字を適当に焼込んでゐる手法である。しかも懇切に鞭用の棒で画面上の注意すべきところを指示して、その棒が停止したところで説明文字が挿入されるといふ手法である。動いてゐる画面が突然そのまゝスチール写真になるだけでも相当注意力を集中するには効果的であるのに、その上停止した画面上に鞭の静かな動きを持って来たことは教科或は教便フィルムにとって、テクニックの問題であるが大きな進展と見ることが出来よう。」（小泉生　『活映』64輯p42 ）

海の生命線

［梗　概］

＊「撮影は赤道をくだったマーシャル、カロリン、マリアナ諸島の風物・人情・生活などを描くとともに、いかに日本との関係が深いか、また広く世界と結び付いているかを説き、進んで豊富な資源と国防上の重要性を力説している。」（『映像文化の担い手として 』p27-28）

［解　説］

＊「８年４月、海軍の測量船『膠州』（特務艦）が、日本の委任統治領であった南洋群島方面に航海するので便乗しないかと普及部から誘いがあった。社内で検討の結果、『海の測量』とか『珊瑚礁』などというテーマで短編映画の４、５本も撮れるとよいという話がまとまり、カメラマン上野幸清と助手北川二和が便乗することとなった。（中略）こうした測量を撮影していたある日、艦長は上野幸清を呼び、『今回の南洋群島、珊瑚礁の測量は、秘密裡に行われている。日本と米英との外交関係は必ずしもうまくいっていないから、有事に備えての準備行動である』などと話した。そして海軍省発行のパンフレット『海の生命線』を示しながら、日本委任統治領の南洋群島領が資源確保上ばかりでなく、防衛ラインとしていかに重要であるかを国民に理解してもらいたい。ついては南洋群島が日本の将来の生命線であるという映画を横浜シネマで制作してはどうかと言う。早速、上野幸清は制作内容（企画）を艦長に提案したところ、企画には大賛成であり、是非横浜シネマで完成させてほしいと言う。（中略）しかし、艦上であり、一民間会社のために公用無電の使用は認められず、会社に連絡する方法がない。よう

やく沖之鳥島から五昼夜南下したヤシの実の生い茂るヤップ島から佐伯に打電した。そして返事は南洋庁のあったパラオ島で受け取ったのである。この映画は絶対成功間違いなしと佐伯は喜んだのであろう。自ら現地で陣頭指揮を執る決意をし、録音の阪倉得三を伴って、南洋航路の『山城丸』に乗船し一路パラオ諸島に向かい、同諸島のコロール島で上野幸清らと合流した。（中略）この制作には２か月かかり、取材したフィルムは１万５千フィートにも及んだ。（中略）帰国後、７千フィートに編集、ナレーションは青地忠三が担当、音楽はコロムビア楽団が伴奏したが、たまたまハワイから来ていた学生がギターを弾き、南国情緒をかもしだし、ここに日本初の長編記録映画が誕生したのである。」（『映像文化の担い手として』p27-28）

＊「『海の生命線』は、完成と同時に毎日新聞社に見せると、これは時局柄おもしろいから是非売れというので、たしか一万五〇〇〇円で毎日へ売りました。毎日は配給権を三映社に三万円で売り、興業に当っては全国の毎日新聞購読者に半額入場券を配付して気勢をあげた。あとできくと、東京、大阪はじめ松竹系の各興行場から上った歩合金一二万八〇〇〇円で三映社の手に入ったとかで、この方面でも大きな話題になりました。（佐伯永輔談）」『日本教育映画発達史』p79）

＊『活映』第65輯（昭和８年７月）p52 によると、「文化フィルム『南の生命線』水野活映部長の発案で横浜シネマ製作に着手」とあり、この時期「南の生命線」のタイトルで製作が進行中だったことがわかる。なお水野新幸氏は大阪毎日新聞社活映部長。『活映』第68輯（昭和８年10月）p50 には「『南の生命線』改題『海の生命線』完成」の記事が見える。

＊『活映』第69輯（昭和８年11月）巻頭に大角海相、鳩山文相、永井拓相の感想と談話が掲載されている。なお同輯p47-50には「“海の生命線”誌上物語」と題した特集記事が組まれている。

＊『映画教育』第71輯（昭和９年１月）p38 に、「京阪神の三都でオール・トーキー『海の生命線』　封切に先立ち試写公開」の記事が見える。京阪神地域では昭和８年11月29日に試写公開された。

＊『映画教育』第72輯（昭和９年２月）p39 に、「『海の生命線』に文部省杯」の記事が見える。昭和９年１月18日に文部省で開催された民衆娯楽調査委員会で昭和８年度優良映画として受賞が決定した。同誌第74輯p39 によると、授賞式は同年３月３日に執り行なわれた。

海の測量

［梗　概］

＊「渺茫果しなき大洋や、暗礁の多い港湾の測量、それから産れる海図が如何にして出来るかを其原理と実況とを線画を交へて説明したるもの。」（『教映ニュース』20号p19）

海の水はなぜからい

［梗　概］

＊「金持だが欲深な兄と、貧乏だが正直者の弟がいた。正月前、兄に餅の無心をしたが断わられ、とぼとぼ帰る途中、丸木橋で落ちかけていた老人を救う。老人は

お礼に、不思議な森の小人たちのことを教え、小人の好物のマンジュウをくれる。森へ来た弟は、小人達の仕事を手伝い、マンジュウと交換に『宝の小臼』をもらう。欲しいものが何でも出て来る臼のおかげで貧乏な弟は村一番の金持になる。欲深な兄は弟の臼を盗み出し、離れ小島で一人でぜいたくしようと、小舟に小臼と食料を積んで海へ。沖に出た兄は塩を積んで来なかったことに気づき、聞き覚えた呪文を唱えると、出るわ出るわ船の中は塩の山。しかし臼をとめる方法を知らなかったので、塩は船を埋めつくし、ついに沈没。臼は海底でいつまでも回り続け、塩を出したので、いまでも海の水はからいのだという話。」（『日本アニメーション映画史』P214）

海の桃太郎

［梗　概］

＊「平和な海の底に大騒動が起こった。噂の大鮫がやって来て、魚を片っぱしから殺した。この騒ぎで竜宮城では御前会議が開かれ、日本の桃太郎に救援を頼むことになった。竜宮城からの無線電信で、桃太郎は新式潜水艦“桃太郎丸”で竜宮へ向かった。船に弱いキジを留守番に、犬、猿を家来に連れて行った。サンゴ林の奥の岩穴に大鮫の住居があり、そこへ爆弾を投下。驚いて飛び出した大鮫との間に大戦闘が始まった。魚雷を巧みにかわした大鮫は攻勢に転じた。艦の司令塔は壊され、スクリューも折られ、舵の自由さえ失った。かくなるうえはと、桃太郎自ら腰の一刀ひき抜いて大鮫の背にまたがり、鮫の胸元を一刺する。地上では桃太郎の鮫退治成功の号外も出て、桃太郎の両親も大喜び。」（『日本アニメーション映画史』P206）

麗わしの国智利

［梗　概］

＊「智利の硝石、銅等の産物産業、首府サンチアゴの風物、世界的に有名な競馬、アラウカウヌ土人の踊り、チリー富士の偉観等を序述した横浜シネマ作品の縮小版。」（『文化映画』昭14・2 p49 ）

［解　説］

＊「本映画は横浜シネマ大作『南十字星は招く』の抜粋篇」（『教映ニュース』31号 p22-23）

＊「チリの取材も首都サンチャゴを根拠に、南部の湖沼地帯の華麗な風景、北のアントファガスタ付近の銅鋼採掘、イキケ付近の大硝石地帯の採掘状況、大サボテン群生風景などを撮り、先のアンデス越えの時に見た最高峰アコンカグァの空撮をして、チリ国での取材を終えました。」（上野幸晴『カメラをかついで五十年 』p55 ）

＝　オ　＝

おいらのスキー

［梗　概］

＊「雪の山奥からウサ公二匹が、タヌ公を誘ってスキーに出かける。タヌ公は初めてなので、あぶなっかしいが、すぐ慣れて珍芸続出の競争をするがタヌ公が勝つ。」（『日本アニメーション映画史』P201）

おいらの野球

［梗　概］

＊「タヌ公チームとウサ公チームの野球試合。狸軍優勢のうちに試合は進み、五回の攻撃で狸軍キャプテンの走者一掃の大ホームラン。ボールは森の中に落ち、ヒキ蛙が卵と間違えてのみ込むが溶けないので苦しむ。ボール探しの兎らが助けてくれて、やっとはき出すが、ボールがつかいものにならず、遂にドロンゲームになる。」（『日本アニメーション映画史』P201-202）

御国の為めに

［梗　概］

＊「召集令状を受取った凸山上等兵は、村民万歳のうちに送られて勇ましく出征した。戦地に於て、彼は司令官から敵陣視察の命を受けて、突進！突進！首尾よく敵兵の秘密地図を奪ふ。之に依って味方の全軍総攻撃となり、遂に日の丸の国旗は高く翻る。」（『映画教育』38輯広告）

お猿の艦隊

［梗　概］

＊「猿とタコは昔から仇同志らしく、猿の国は常にあばれもののタコ達におびやかされる。止むを得ず国防第一と海岸に鉄条網を張りめぐらし、展望塔を設け、歩哨を配置、厳重な警戒ぶり。ある夜、防備を破りタコ軍が来襲、丹精こめた西瓜を奪って逃げる。猿軍海上まで追いかけ、大海戦の末、タコ軍を全滅させる。」（『日本アニメーション映画史』P217）

お猿の大漁

［梗　概］

＊「凍った湖面に穴をあけ狸公が魚釣しているが全く釣れない。氷上で猿がアイススケートを始める。猿は片方のスケート靴を狸公に貸してやる。一方、釣糸をたれたままの氷穴で音がするので、引返し糸を引くとナマズの様な魚の王様がかかっていた。怪魚は二人をにらみつけたので、あわてて逃げる。怪魚は笑い声を残して水中へ。頭に来た猿は怪魚を退治にと水の中へ跳び込んだ。水中で怪魚をさがすが、怪魚は部下の魚に命じ、魚の機関銃を猿めがけて発射。猿は最初ボクシングよろしく魚の弾丸をうちかわしていたが、とうとう負かされ氷上へ逃げ戻る。今度は得意のアイデアで狸公に手伝わせ、大きなカゴとゴム風船、空気入れを用意。再び水底へ潜り、チョンマゲカヅラ、チャンチャンコを着て口上を述べ魚達を集める。ゴム風船で地上見物すると面白いと宣伝。つられた魚は、地上見物をしてみたくなり、ゴム風船をくわえ、水面へ次々に上ってゆく。氷上で待ち受けている狸公、片端から浮び上る魚をつかまえカゴの中へ。ついに怪魚に見つかり、部下の仇討ちと猿を追いかけるが、空気入れの管を怪魚の口へ押し込み空気を入れたので、フグの様にふくれ上り、氷上へ飛び出す。猿と狸公、大漁に喜びながら怪魚にカゴを引かせて氷上を行く。」（『日本アニメーション映画史』P209）

お日様と蛙

［梗　概］

＊「森の池では蛙の子が増殖。騒ぎ回るだけでなく餌も沢山食べるので、魚達は困

り果て、魚の大将の鯉を先頭に蛙の代表に抗議書を提出するが、蛙の面に水とやらで、ついに戦争となる。魚軍形勢不利となり、池の主の大ナマズに出馬を乞う。大ナマズの活躍で逆に蛙軍敗退。策つきた蛙はお日様に願をかけ思う存分照りつけてもらうことにする。お日様、蛙の願いを聞き入れ、照りつけたので、反対に池の水が干上り、魚の危機。ついに大ナマズを先頭に和議を乞う。蛙も皆殺しにする気はなく、雨蛙が天に祈り雨を乞う。大雨が降り池は元通り水をたたえる。ケンカは両損というたとえ話。」（『日本アニメーション映画史』P217）

思出のアルバム

［梗　概］

＊「秩父宮殿下御滞英中、大正天皇御不例の悲報に接せられ、急遽の御帰朝、横浜に御上陸の御模様並に大正天皇御大葬を謹写せるもの。」（『教映ニュース』24号p12 ）

＝　カ　＝

蚕

［梗　概］

＊「蚕の初眠から上簇までの過程を収めてをり、眠後に於ける脱皮の大写や、上簇前の農家の忙がしい情景は学術的にも趣味的にも興味深きものである。」（『教映ニュース』20号p15 ）

蚕の発生

［梗　概］

＊「蚕卵紙より蚕の発生の大写、掃立・除沙・分箔等第一齢に於ける飼育の状態を撮影せるもの。」（『教映ニュース』20号p17 ）

蚕の繭と蛾

［梗　概］

＊「上簇後に於ける結繭、蛹化、発蛾の大写、蚕種の製造、製糸、つむぎ糸及真綿の造り方等を明細に示す。」（『教映ニュース』20号p17 ）

＊「五学年十七課によって編輯したもので、繭のうちでの蛹の状態から十数日後蛾となるところ、蚕体の説明産卵、製糸、紡織、屑糸の利用などを収めてある。」（『活映』66輯p52 ）

海豹島

［梗　概］

＊「樺太東部近海の孤島海豹島に於けるオットセイ、ロッペン鳥の大群、正に天下の奇観である。」（『教映ニュース』20号p17-18）

かへる

［梗　概］

＊「冬眠より醒めた蛙が産卵し、卵から成蛙になるまでの発育順序と捕食、運動の方法。地中、苔の下、樹上の卵等を紹介してゐる。」（『教映ニュース』20号p15 ）

［解　説］

＊「日本の科学映画の発展に大きな足跡を残した太田仁吉は、東京市立芝赤羽小学校訓導として在職中、これからの理科教育は視覚教育以外にないと同僚たちと

ともに、16ミリの理科教材映画『かえる』（全一巻）を製作した。一九三二年（昭和７年）、太田仁吉三十九歳のころである。この映画は、日本の科学映画史をかざる最初の作品であった。『かえる』の製作費は岡本洋行から出たといわれているが、シナリオはその頃四谷第三小学校の訓導をしていた長谷川和夫が書いた。一九三二年（昭和７年）春、自由ヶ丘の近所で蛙の冬眠から撮り始めたが、もう蛙は冬眠からさめているため、田圃（その頃の自由ヶ丘は田園地帯）でつかまえて麻酔薬を注射して仮死させてもう一度冬眠しているようにうめて、生徒を集めて蛙を掘り出し、手のひらにのせると、冬眠しているはずの蛙の麻酔が切れて小便をもらしたというエピソードを、長谷川和夫は、ある座談会で語っている。」（『日本の科学映画史』p14-15）

蛙は蛙

［梗　概］

＊「動物園の猿舎の話で、いたずら子猿が見物客が捨てた葉巻を拾い、得意になって人間の真似をして吸う。とうとう目を回してしまう。気がついた子猿に親猿はイソップ物語の『蛙と牛』の話をきかせ、蛙は蛙、猿は猿、人間の真似なんかするものでないと教える。」（『日本アニメーション映画史』p198）

［解　説］

＊「それまで一駒ごとに、手で動かしていた撮影法を、自動的に切りかえたのは、商会主の佐伯永輔が、村田のために、日本ではまだ珍らしいモーター式カメラを設備したからである。この自動カメラによる最初の作品が『蛙は蛙』である。」（『日本教育映画発達史 』p86 ）

輝く軍艦旗

［梗　概］

＊「本映画に於ては、五十年間に於ける帝国海軍の歴史を、艦船総噸数の増加から説き起し、明治廿二年即ち軍艦旗制定の年には初代の扶桑、金剛などを主力艦として総噸数僅かに約四万噸であったのが、昭和十三年には陸奥、長門の主戦艦を初めとして其総噸数約百万トンに飛躍するに至る迄、その間に於ける幾多の輝かしい戦蹟を描く。」（『日本文化映画年鑑』p127）

火山の話

［梗　概］

＊「富士箱根の代表的死火山を始め、三原駒ヶ巌の活火山、更に布哇のキロウェー、伊太利のエトナ山の爆発と溶岩流出の物凄き場面。」（『教映ニュース』20号p19 ）

＊「六学年理科二十課『火山、火成岩』の教便フィルムとして、火山とはいかなるものか、噴火はいかにして起るかなどの問題を初めとして、二重火山、寄生火山、火山灰、軽石、熔岩流等を線画を加へつゝ説明し、後半にはハワイ・キロウェー火山の実写やイタリ・シシリー島エトナ火山爆発の実況等得がたき資料が収められてゐる。」（『活映』66輯p52 ）

鎌倉と江の島

［梗　概］

＊「鎌倉の名所旧蹟と江の島の風光を収む。」（『教映ニュース』20号p16 ）

＊「横須賀線の省線電車が（中略）鎌倉の駅に入る。駅前の通りは北へまっすぐ八幡宮へわれわれを導く。その昔別当公暁がかくれてゐた大銀杏、石の階段、若宮堂、それから鎌倉宮にまうで、附近の苔むした源家の諸将の墓を弔ひ、建長、円覚の両古寺を訪ひ、やがて道をかへして由比の浜に出る。読本と反対に浜辺は左である。このあたりの景勝をカメラは山上より海辺より収録し、長谷の観音、露座の大仏、稲村ヶ崎を過ぎれば七里ヶ浜良く晴れた日には富士がはるかにうかぶ。片瀬川が海にそゝぐところ桟橋づたひに江の島にわたる。江の島神社から島の裏へ廻ると名物さゞえの壺焼の茶店がならんでゐる。嶮しい断崖の下は稚児ヶ淵、さゞえ採る漁夫の群れ、奇怪な洞窟。これでこの一篇は終る。」（『映画教育』46輯p34 ）

［解　説］

＊「尋常小学国語読本巻十二、第七課『鎌倉』に準拠して、これまた全日本活映教育研究会指導のもとに横浜シネマ製作の教科フィルム。読本ではこの課は歌詞の形式によってゐて、七里ヶ浜より鎌倉の中枢に入り建長、円覚両寺をもって結んであるが、この作品はそれ以上に、名所『江の島』をも意図してゐるので、まづ省線鎌倉駅よりはじまる。丁度読本とは逆のコースをとるのであるが、順路としての妥当性はこの行き方の方に歩がありはしまいか。」（『映画教育』46輯p34 ）

紙

［梗　概］

＊「日本紙と西洋紙の製造及その利用を対比的に説明したもの。」（『教映ニュース』20号p18 ）

＊「次の字幕は十六ミリ版によったもの。字幕　－　1、紙　サクラグラフ　2、日本紙の原料楮（かうぞ）　3、蒸して　4、皮はぎ　5、きれいな河水の中でさらす　6、煮る　7、外皮をとる　6、ごみや其他の不純物をとる　7、よく叩いて　8、かうして出来た原料（もと）を－　9、すき上げた紙が互にくっつかないやうにとろといふ一種の糊を加へる　10、紙すき　11、水を絞りとる　12、一枚づゝ乾かす　13、そろへて断つ　14、私共の生活に日本紙の需要はまだまだ広い　15、次に洋紙は－　16、樺太や北海道の奥地で－　原料のエゾ松やトド松が伐出される　17、積雪を利用して河岸へ搬ばれ　18、雪どけの水に乗って河を下り－　19、製紙工場へ　20、細かに砕かれ－　21、種々の化学的処理をうけてパルプとなり　22、大仕掛けな機械装置で－　紙になる　23、製品　24、かくして－　文明の進歩と共に紙の需要は限りなく伸びてゆく」（『映画教育』93輯 p50-51 ）

［解　説］

＊「日本紙の製造は埼玉県小川町、洋紙の製造は樺太を舞台として撮影したもの。編輯は青地忠三氏。」（『映画教育』93輯 p50）

紙芝居いたづら狸

［梗　概］

＊「紙芝居の狸が散々いたずらをする話。」（『日本アニメーション映画史』P208）

＊「子供の大すきな紙芝居のおぢさんが来る。拍子木が鳴って初まる『いたづら狸』の一幕、あるところに狸が住んでゐた。腹が大変へったのであるお寺へしのび

込み、供物を食べてゐるところを発見され種々大立まはりの末、月澄みわたった野原に出て腹鼓をうつといふのが略筋である。」（『活映』66輯p51 ）

［解　説］

＊「村田安司の昭和３年『文福茶釜』の前半、狸がお寺でいたずらをする部分を中心に、トップに紙芝居の話と、ラストに狸の腹鼓のシーンを付け加えた改版物。」（『日本アニメーション映画史』P208）

紙芝居金太郎の巻

［梗　概］

＊「足柄山の金太郎が毎日動物を集めて角力のお稽古、やがて都に旅立ち四天王の一人坂田金時になる迄の面白い漫画。」（『教映ニュース』20号p14 ）

関東御嶽山

［解　説］

＊「入社当初の上野の初仕事は、地元神奈川県庁の観光記録映画『関東御嶽山』であった。カメラは、フィルム400 フィート巻パラゴン機（パルヴォ）で、当時としては新鋭機であったが、機材一切を含めると、かなりの重量であった。上野と相原は重い荷を背に両足に血マメを作りながら、御嶽山の峰を歩き回った。」（『映像文化の担い手として 』p6-7）

＝　キ　＝

汽車の発達

［梗　概］

＊「“本映画は尋常小学校読本巻九『汽車の発達』によりて編む”とタイトルが出て、ブランカ、ニューコメン、キュニョー、トレビシック、スチーブンソンの蒸気機関の発達を動画で説明。実写でイギリス鉄道百年祭、我国の汽車製造風景などを見せ、再び動画でボギー車の構造、全国に延びる鉄道路線を示す。最後にＣ51が勇壮に走る。」（『日本アニメーション映画史』P206）

［解　説］

＊「汽車の歴史を実写と動画で説明したもので、アニメの部分は全体の約三分の一。」（『日本アニメーション映画史』P206）

＊「尋常小学読本巻九にある同名の課を読んであの抑揚に興味をひかれました。鉄道省の博物館、文部省の東京科学博物館でいろいろ便宜を与へて貰い、一通り汽車の発達を頭に入れました。鉄道省所蔵の英国鉄道百年祭記録映画中からスチーブンソン時代の模擬実演のシーンを分与して貰ったこと、ディヴライ学術映画中から米国最古の汽車運転の実況シーンを得たことが本フィルムを価値づけたこと多大です。キュニョーやトレビシックの汽車がどう動いたかを調べるためには二つの博物館へ十回以上通ひました。ボギー車の構造を線画で説明したことが、或は余計なことではないかと気遣ひましたが、意外に好感を以て迎へられたのは嬉しいことです。日本最古の第一号機関車が、鉄道省大宮工場の倉庫に眠ってゐるのですが、これを引っぱり出してポッポッと動かして貰へなかったのを今でも残念に思ってゐます。」（青地忠三「汽車の発達について 」『活映』63輯p30 ）

騎兵教練

［梗　概］

＊「陸軍騎兵学校教導隊および習志野第十五聯隊全部の参加を得て騎兵学校教官岡田少佐の撮影指揮監督のもとに出来上ったもの。馬上体操、軍刀操法、仮標斬突、それぞれに興味深いものである。流れを乱して渡る水馬の面白さ、部隊教練に移って両単斥候の活躍、伝騎の苦心、本隊の行動、機関銃隊の陣地進入、河を渡り、野を越えて、白刃閃く最後の突撃まで、全篇息詰まる程の緊張を感ぜしむる。」（『大毎フィルム・ライブラリー日録』p94）

京城だより

［梗　概］

＊「京城の位置およびその附近の風俗風景」「京城駅、南大門通から本町通、南山からの眺め、昌徳宮、景福宮朝鮮総督府等々」（『活映』68輯p42）

［解　説］

＊「小学校用国語読本・巻十・第十三課『京城の友から』、同尋常小学読本・第十二・第十一課『京城の伯母より』に基いて撮影、編輯」（『映画教育』53輯 p 34）

京都の御盛儀　御大典第二報

［梗　概］

＊「御召列車の京都駅着御、堺町御門より平安の御所に入御遊さるゝ御情景や、紫宸殿御前の御習礼、大嘗祭の宮居を謹写してゐる。」（『教映ニュース』20号p16）

＝　ク　＝

空中撮影富士

［梗　概］

＊「雪の冠、雲の帯、霞の裾を遠くひく日本一の富士の山を飛行機上から撮影したもので，富士五湖、三保の松原、愛鷹山などもカメラに入ってゐる」（『フィルムライブラリー月報』4輯p2）

＊「富士山頂を旋回及横断飛行による撮影である。機翼春光に照り、白銀眩ゆき山嶺。壮観、雄大極りない。」（『教映ニュース』22号p15）

くらげとその仲間

［梗　概］

＊「くらげ・いそぎんちゃく・さんごの形態及習性を実写と線画によって説明したもの。」（『教映ニュース』20号p18）

軍用犬

［梗　概］

＊「陸軍歩兵学校における軍用犬の育成、訓練および戦闘教練時にお（け）る歩哨、斥候、伝令、弾薬補充、負傷兵捜索等の諸作業を同校教官指導の下に撮影」（『活映』65輯p42）

健康と美

［梗　概］

＊「真実の婦人の美は完全な健康と、充実した力から生まれるものであることを表はした教材映画」（『フィルムライブラリー月報』４輯p1）

＊「**▲解説　T大毎フィルム・ライブラリー**　○この映画は私達が、殊に日本婦人が最近健康とか体育とかいふことに気をつけ出して、色々と運動をしてゐるところを示したもので、ほんとうに体育をやらうと思ふと正しく稽古せねばなりません　**T健康と美**　○健康はその人の精神までも清く朗かにするものです。単なる身体の美、粉飾の美は駄目です。精神と肉体と相一致した美こそ完全なものでせう　**T編輯　青地忠三　撮影　飯田光治　T美は健康の泉より湧く**　○円滑な運動、硬くこはばってゐない関節、調和のとれた体格、健康と正常な発達をしてきた身体がもつ美はこんなものです　**T『正しい姿勢』は健康と美の第一歩**　○歩武堂々軍人さんを凌ぐところがあるが、そのやうにかたく、きつくはありません　**T正しい姿勢の要点**　○それでは正しい姿勢とはどんな姿勢でせうか。つぎにしめすものによって、その特に陥り易い欠点に注意しなさい　**T（一）頭を高く顎を水平に**　○首筋をのばして、眼は真直ぐ前方やゝ高きところをみる　**T（二）肩を水平にして後ろに**　○なで肩、いかり肩にならぬこと　かたく力を入れぬこと　**T（三）背筋を真直ぐに**　○上へ伸す気持でやる　**T（四）胸を張り下腹部を引込めよ**　○鳩胸はいかぬ、体全体を少し前へかけるとよい　**T（五）全身の重心は土ふまずの上に落ちる**　○不動の姿勢は動けない姿勢でなくて、何時でも動けるやうにできた最も注意した姿勢である　**Tよくない姿勢の例**　○次の姿勢は誰もなり易い姿勢であるから特に気をつけていたゞきたい　**T前かゞみ　Tそり過ぎ　T疲れた形　T堅くなり過ぎ　T日本の女性が陥り易い姿勢　T日常生活においてしらずしらずの間に姿勢を悪くすることが多い　Tたえず同じ肩に荷をかける場合　T姿勢の矯正**　○常に次のやうな矯正運動をやってゐたら正しい姿勢を保つことができるし、これに習慣をつけておくことが大切である　**T（一）頭の筋肉を強くする運動**　○この運動はひいて頭脳を明晰にする　**T（二）背の筋肉を強く胸の筋肉をのばす運動　T（三）背柱の曲りを直す運動　T（四）関筋の腱および靭帯を柔かくする運動　T（五）腹筋を強める運動　T（六）全身の均斉を整へる運動　T『姿勢は人格を表はす』といひます。こんな姿勢からどうして快活と元気が生れませう　T洗へば落ちる美は求めるに足りません**　○だがこれは誰もやりさうなことです。上べの美は本とうのものではありません　**T真の美は完全なる健康と充実した力から生れます　T明るく　T朗らかに　Tやさしく　T正しく　T強く　Tかくして健康と美に輝くわが国民の母は作りあげられます　T健康と美**　（終）」（『映画教育』45輯p41-42）

興亜と海軍

［梗　概］

＊「本映画は興亜の大業に対する我帝国海軍の責務を明かにせんが為、先づ今事変当初よりの海軍作戦経過の概要を示し、更に進んで新東亜建設と日満支の経済提携、これに伴ふ海外資源の必要、対外貿易及び海外発展の助長等の諸項目を挙げて、興亜建設と海洋権確保の相関的重要性を強調する。まづ上海－陸戦隊出動、渡洋爆撃、航行遮断、遡江作戦、南支制圧。かくして聖戦究極の目的東亜新秩序の建設へ、更に日満支経済ブロックの結成へ。経済提携が成立しても、我工業を更に拡大する為には、尚海外から輸入すべき原料が沢山ある。更に長期建設に必要な巨額の費用は海外貿易に依る国富増進に俟たねばならぬ。以上を線画挿入して説明する。」（『日本文化映画年鑑』p129）

かうもり

［梗　概］

＊「昔、鳥と獣が戦争した。激しい戦だったが、利口なコウモリは双方ともに旗色の良い時だけ味方した。やがて戦争は和睦になったが、コウモリだけは仲間はずれになり、以来夜の世界をとび回らなければならなくなった。教訓漫画。」（『日本アニメーション映画史』p202）

［解　説］

＊「本映画は尋常小学校国語読本巻三第二十三『かうもり』と同一題材を漫画にしたもので、二心を懐くものは遂には一身のおき場さへなくなるといふことを会得させる」（『映画教育』36輯 p34）

こがね丸

［解　説］

＊「横浜シネマ商会では、昭和十五年一月より山本繁、浅野恵を中心に外国漫画“ポパイ”のフィルムを分解し、作画技法の研究を始めた。青地忠三が海軍省後援記録映画『揚子江』の中国ロケ中に上海でディズニーの『白雪姫』を見て佐伯永輔社長に長編漫画映画の企画を打診。その結果、昭和十六年一月より日本初の長編漫画『こがね丸』の製作に着手した。昭和十六年春、漫画線画専門の製作所として『横浜シネマ研究所』を設立、八巻ほどの長編映画となる予定であったが、その頃より海軍航空本部の教育映画（線画）製作の需要が次第に多くなり、肝心の長編漫画の方は人手不足で、最後は浅野恵ただ一人で細々と製作するという惨状であった。昭和十七年二月、約二千呎製作したところで製作は中止された。この作品では、アメリカの映画雑誌よりディズニーのマルチプレン・カメラをまねて設計製作した国産の多層撮影台が使用された。」（『日本アニメーション映画史』P226）

＊「当時、童話作家として有名だった巌谷小波の古典童話から題材を選び『こがね丸』とした。これは、犬の仇討ち物語で、これを完成させるため、16年春、横浜シネマ商会のなかに、新たに『横浜シネマ研究所』を設置した。」（『映像文化の担い手として』p35-36）

御儀跡及御親謁の巻

［梗　概］

＊「紫宸殿御儀跡を初め、五節舞、万歳楽、太平楽等の諸舞楽並に泉山、桃山、多摩等先帝御四代の御陵へ御親謁の御模様を謹写したもの。」（『教映ニュース』24号 p12 ）

御大典映画

［解　説］

＊「年号が昭和とかわり、新天皇の御即位の式が京都御所で行なわれる御大典の式となりました。この取材は京都、関西方面にありました。京都御所内紫震殿で行なわれる本式典は宮内庁だけで撮影班を作りました。その他の行事は新聞社関係一、映画制作所関係一、文部省一、外国ニュース関係一を加えて計五組の代表撮影班が決まり、私は外国ニュース関係のカメラマンとして取材することになりました。御大典後の新天皇は大和平野に散在する御陵の参拝をなされ、私もその状況を取材して回りました。」（上野幸清『カメラをかついで五十年 』p27-28）

国歌・君が代

［梗　概］

＊「国歌『君が代』全曲をスクリーンミュウジックとして線画化し、そのバックに御大礼儀観兵式、観艦式の御模様等の実写を配した一つの新しい試みである。」（『映画教育』72輯 p59）

［解　説］

＊「当時の広告では『我国最初のスクリーン・ミュージック』とある。実写で伊勢神宮、二見浦、富士山等を見せると共に五線譜の上を白い玉（バウンシング・ボール）が音階をたどって動く。これは昭和四年九月に公開されたマックス・フライシャー作品“Ye　Olden Melodies『蛍の光』を真似たものと思われる。」（『日本アニメーション映画史』P201）

瘤取り

［梗　概］

＊「昔、太郎平さんと次郎平さんという二人のお爺さんが隣り合せで住んでいた。太郎平さんは正直で働き者。ところが左のホホに大きなコブがあった。次郎平さんは欲張りの怠け者。これも右のホホに大きなコブがあった。太郎平さんは毎日山へ薪を取りに行く。ある日、にわか雨に降られ、雨宿りに大木の洞に入り、つい寝込んでしまった。物音に目がさめて外を見ると、大天狗、小天狗達が集って酒盛りの最中。天狗達の踊りを見ている内に、面白くなって自分もヒョットコ踊りを見せる。天狗達は大喜びで、明晩も来る様にと頼み、それまでホホのコブは預っておこうと取ってくれる。コブを取ってもらい、内心喜びながら太郎平さんは帰宅する。この話を聞いた欲張り次郎平が、太郎平さんに化けて、翌晩出かけるが、下手な踊りのため、天狗達は怒り、預っていたコブを次郎平の左のホホにくっつける。」（『日本アニメーション映画史』P199）

［解　説］

＊「鬼のかわりに、大天狗と多くのカラス天狗が登場する。夜間シーンはシルエッ

トを用いて表現した。」（『日本アニメーション映画史』P199）

＝ サ ＝

さくら

［梗　概］

＊「桜の形態と生態を実写及線画に織り交ぜ、その解剖的研究より、あの美味しい桜桃の咲き匂ふ花や果実を見せてゐる。」（『教映ニュース』20号p15 ）

＊「本映画は尋常小学理科書第四学年第一課『さくら』によりて撮影製作せしもので必要の箇所に線画を配し一見にして『さくら』の種類及び構造等を理解する事を得る教科フィルムである。」（『大毎フィルム・ライブラリー目録 』p80 ）

＊「さくらの名所およびその種類、開花時期より花の構造までを撮影せるもの。」（『大毎フィルム・ライブラリー目録 』p82 ）

鮭

［梗　概］

＊「樺太の河川に於ける、鮭の泝上と、それを捕へて人工受精を行ひ、養殖、放流から捕獲の状況を所々に線画を加へて説明し、利用法としての塩漬及び缶詰等の作業を示す。」（『教映ニュース』22号p19 ）

［解　説］

＊「かつて『北進日本』を製作するに当って、樺太、千島およびカムチャッカ近海へ出かけた際に撮影してきたものによって、青地忠三氏の編輯で、一般常識涵養映画としてまとめたもの。」（『映画教育』92輯p56-57）

札幌と十勝

［解　説］

＊本フィルムは、東京駅前の旧国鉄本社ビルの解体準備作業に際して、「新潟と佐渡」とともに発見された。上映時間はともに10分程度。撮影スタッフとして矢作保次氏が参加している。発見の経緯については、『ユニ通信』第4261号（平成９年10月６日）を参照のこと。

猿蟹合戦

［解　説］

＊「第一回の作品はお伽噺の『猿カニ合戦』でしたが、八百呎五分で駒数は七千二百になります。書く画は少なく見積っても、三千枚位書いたようです。完成まで三ヶ月掛かりました。書く人も大変ですが、切抜き作業も大変でした。書いて切りぬいて駒撮影といった作業の繰返しが幾日も続きました。私がニュース取材をしている間、村田氏が作画して、五秒分位溜ったところで撮影をしていましたので、大変時間がかかりました。（中略）初めての漫画映画『猿カニ合戦』はオデオン座で試作漫画として封切ったのです。村田氏が看板を書いていたので、館主はじめ弁士達とよく交流していたので、上映料は無料でよいから上映して欲しいと話し、それでは試写の結果を見てから、と言う事になりました。夜閉館してから、試写をしました。その結果、面白いと言うことで館主に話して、次の週の番組に取入れる事になりました。弁士達がサル、カニ、ウス、ハチ、クリなどの

声の分担、打合せが始まり、何回もリハーサルをしました。上映は外国物二本で上映時間は二時間半位だったと思います。その間に私共の漫画を入れました。結果は大変評判になり、その週の入場客が多かったと言う事でした。館主から金一封の礼金を戴きました。」（上野幸清『カメラをかついで五十年 』p34-35）

猿正宗

［梗　概］

＊「猟師に射たれかけた猿を助けた飛脚が、猿から名刀をお礼にもらう。猪に追いかけられるが、この名刀で助かる。」（『日本アニメーション映画史』P203）

＊「街道の山続き、状箱かついで急ぐ飛脚が、猿の危難を救ったために、名刀猿正宗を贈られ、それが飛脚の立身出世の緒をなすといふ。」（『教映ニュース』20号p14 ）

＊「昔、一人の足軽が主人の大切な手紙を持って旅をしてゐた。ふと或る峠へかゝった時無慈悲な猟人の手にかけられやうとしてゐる猿の親子を助けた。猿はお礼に足軽を棲家へつれて行き馳走をした上一口の刀を与へた。帰途猪に出会ひこの刀で斬ったところみごとに胴から真二つになった。これこそ稀代の名刀『猿正宗』だった、足軽はその後取立てられて侍になることができた－といふ話。」（『映画教育』51輯p13 ）

［解　説］

＊「あの話は『猿の一文銭』といふ童話と『猿正宗』といふ童話とを、つきまぜてこしらへあげたものです。（中略）この二つの話を一つに合せて見ましたが、まだ物足ない。貰った名刀の切味を見せるために、大猪を飛出させ、みごとに胴切り、刀も刀、斬り手も斬り手といふところで、足軽殿をお侍に出世させて幕にしたのであります。ナンセンス百パーセントの漫画は見た瞬間に面白くても、見た後には何物も残らない。そこに一脈しんみりした調子の話の筋が立つと記憶がいつまでも鮮かなものである。また自分達が幼い時、母の膝に抱かれながら聞いた単純な童話は、いつまでたっても懐しい味の抜けないものである。この二つの気持を取り込んで、何かあっさりしたものを纏めて見たいといふ意図で出来上ったのが、この『猿正宗』でありました。出来あがってみると、村田君の例の霊筆によって、自分の望む通りのものが完成し、自分としては非常に気持のよい素直な作品として喜びましたが、一般の受けは存外平凡であるのにやゝ失望を感じてゐました。やはり奇想天外爆笑連発といふものでなければ受けないのかと迷ってゐました時、意外にも、この一篇が推薦の栄を得たのであります。」（青地忠三「『猿正宗』について」『映画教育』51輯p12 ）

三公と蛸

［梗　概］

＊「怠け者の魚屋の三公は今朝も仕入れに行かずごろ寝をしている。そこへ廃兵の友人が宝を乗せて沈んだという船の場所を書いた地図を持って来て、上手く引上げたら山分けしようと持ちかける。三公は一人小舟で宝探しに行き、上手く箱を引上げるが、大蛸においかけられる。箱の中には蛸の妻と子供達が入っていたのだ。」（『日本アニメーション映画史』P209）

障碍飛越

［梗　概］

＊「陸軍騎兵学校教官及騎乗界最高権威の人々による各種の障碍飛越を高速度撮影を随所に加へて紹介したもので、前映画と共に馬の利用を知らしむるに好適である。」（『教映ニュース』22号p16 ）

小学校地理映画大系

［梗　概］

＊第八篇　北海道地方

「画面はまづ、青森函館間をつなぐ連絡船の波に始まる。北の海、波を蹴って進む漁船の雄壮な姿がついで展開されると、船は今鰊漁の最中である。早くもわれわれは漁船の人となり本島を離れて遠く水産物に恵まれた洋上に活躍してゐるのだ。網の間に銀鱗は躍る。魚が次第に引上げられて水面を離れると、沢山な『にしん』だ。つぎからつぎへと引上げられるにしんは船の上に抛り出されて、たちまち船の上はにしんの山だ。港にもどれば或はウィンチで、或は人々の背負ったモッコで陸上げが始まる。にしんは陸に山と積まれて行く。　海では、また海の漁船が海の幸をあさってゐる。『こんぶ』だ。それがまた面白いほど沢山とれる。海底から採られたこんぶは浜辺へ並べられて乾かされる。一方、川では産卵期にはいって鮭が流れをさか上って来る。これを網ですくひ上げるのであるが、また捕魚車といふ一種の水車様のものを堰を設けてその水車の幅だけのところへとりつけ自然的に廻転しながら流れて来る鮭をとる方法もある。　こうした海の幸にかこまれた北の島－北海道とはどんなところであるか。まづ雪の残った大雪山連峰の紹介に始まる。つゞいて大雪山、羊蹄山、駒ヶ岳の頂きから大沼公園へ画面は進む。やがて鬱蒼たる森林を列車は進むと間もなく車窓に移って来るものは狩勝の平原だ。更に十勝の平原だ。そして狩勝峠から見下した北海道の大平原が展開される。この曠野に育くまれて、トラクターの偉力は発揮され、野は開発されて行く。見渡す限り一面に花の咲いた畑、馬鈴薯もそだつし、青々とした畑には甜菜の洪水だ。また北海道特有の燕麦の畑も見える。盛んに刈られ、脱穀され、藁は束に積まれて行く。　大牧場もこゝかしこに－真駒内に、月寒種羊場と見うけられるが、天恵はさらにつきない。石狩炭山は有名だが、石炭は汽車で運ばれて室蘭港へ運ばれ船に積込まれて行く。室蘭には室蘭製鋼所がある。この豊富な原料と動力とによって各工場では亜麻の繊維が仕わけられ櫛づられて布に織られる。製麻業だ。或は、釜で醸造されたビールが自動的に栓をされ、レッテルを張られて送り出され、或は牛乳から作られたバターが箱につめられる。　こうした宝庫もかつてはアイヌ人の手にまかされてゐた。鮭を捕る独特な方法、住家や一日の仕事－だが北海道の人口は明治二年に五八、四六七だったものが昭和五年には二八一二、三五五に増加し、開発の意気に燃えるわが同胞は少しも休むことがない。見よ、整然たる札幌市街、札幌駅、北海道庁、札幌市街の活躍を、そして寒さも雪も征服し去って排雪車は進む。宝庫を秘めた大森林、積み上げられた材木、活躍する馬橇、空高く聳え立つ落石無電局、氷結した根室港、稚内を出た樺

太行連絡船は勇ましく氷を割って進んで行く。」（『映画教育』76輯p56-57）

＊第十二篇　南洋諸島

「【字幕一】東日・大毎フィルム・ライブラリー提供　小学校地理映画大系　第十二篇　【字幕二】監修　全日本映画教育研究会　指導　初等教育映画調査委員会　製作　横浜シネマ商会　1、島の一つの遠望　【字幕三スーパーインポーズ】南洋諸島　2、火山島ウラカス　【字幕四スーパーインポーズ】火山島ウラカス　【字幕五】南洋諸島の多くは珊瑚礁である　3、島をめぐる珊瑚礁の浅瀬（遠望）　4、水は澄んで人の泳ぐのが見える　5、珊瑚礁の浅瀬が外海と境するところ、海は急に深く断崖を作ってゐる　6－8、海中に泳ぐタイマイを、島民は巧みに捕獲する　【字幕六スーパーインポーズ】タイマイ　9、砂浜に並べられた籠甲　10、11、貝ボタンの材料となる高瀬貝の採集（島民保護のため島民にのみ許されてゐるもの）【字幕七スーパーインポーズ】高瀬貝　【字幕八】強烈な陽光と南洋特有のスコールとに恵まれて－　12、13、時期によっては殆んど一日に一度づゝ猛烈な通り雨が訪れて、すべてのものを蘇らせる　14-16、かくて、活き活きと繁茂した植物のうち、椰子は　17、18、その実が未熟な間は、果汁が大切な島民の飲料となり　19、果肉はそのまゝ食べられる　20－23、そして熟すれば、果肉は乾し固められて、石鹸の原料となる、これがコプラである　【字幕九スーパーインポーズ】コプラ　24、パパイヤ　【字幕一〇スーパーインポーズ】パパイヤ　25、マンゴー　【字幕一一スーパーインポーズ】マンゴー　26、マンゴーの実　【字幕一二スーパーインポーズ】マンゴーの実　27-29、ゴムの木と液の採取　【字幕一三スーパーインポーズ】ゴムの木　30、31、南洋諸島の産業中最も大きなものは製糖であるが、その原料をなす甘庶の獲り入れ（テニアン、サイパン両島）　【字幕一四スーパーインポーズ】甘庶　32－25、アンガウル島の燐鉱採掘（幾万年前の鳥の糞が積もり固まったもので、貴重な肥料である）【字幕一五スーパーインポーズ】燐鉱　【字幕一六】島民の原始的な生活の名残りを止める石貨　36、37、ヤップ島には、今尚石貨が残ってゐる。石貨（大写）とその取引の状況　【字幕一七】わが国法の下に施政を行ふ南洋庁　38、コロール島にある南洋庁　【字幕一八スーパーインポーズ】南洋庁　39、椰子の街路樹　40、郵便局　41、ガラパン街　42、パラオ小学校　43、登校する学童　【字幕一九】南洋諸島　終　横浜シネマ商会製作」（『映画教育』78輯p59）

［解　説］

＊「小学校地理映画大系」では新規撮影に加えて既製映画が複写利用された。北海道地方では新規１分、複写９分（４種10巻）、南洋諸島ではすべて複写（１種３巻）であった。同大系については『映画教育運動三十年』p157～169 を参照のこと。

＊『映画教育』第90輯（昭和10年８月）p18-19に「小学校地理映画大系」各篇が利用した既製映画の紹介がされている。うち、各篇に利用された横浜シネマ商会の映画は次の通り。

関東地方　：「鯛あみとまぐろ船」「鎌倉と江の島」
奥羽地方　：「東京から青森まで」
中部地方　：「空中富士」

近畿地方　：「大和めぐり」
北海道地方：「北海道の話」
樺太地方　：「大氷海」
南洋諸島　：「海の生命線」（３巻）

ジラフの首はなぜ長い

［梗　概］

＊「猿軍たちは、ジラフは自分たちの所有だと互いに譲らず、首を飛行機で、尻尾をタンクで引っぱり合い、首が長くなる。」（『日本アニメーション映画史』P200）

＊「近所の子供達から『ジラフの首は何故長いのだ？』と、尋ねられたお人好しの小父さんは、さて考へたものゝ本当は知らないので色々のこぢつけ話で、トウトウ皆を満足さしたといふ罪のない面白いお話。児童向。」（『大海フィルム・ライブラリー目録』p50）

［解　説］

＊『日本教育映画総目録』p90 によると本作品は米国エヂュケーショナル社製作とされている他、『映画検閲時報』第２巻 p721 でも米国ブレー映画社製作と記載されており、同名の米国映画（の改作）である可能性があるので注意が必要である。『日本の科学映画史』p13 、『映画教育運動三十年』p499によると、昭和４年頃から昭和６年頃にかけて、青地忠三氏と奥三代松氏（奥商会）は岡本洋行が輸入したブレイ教育映画の日本版改編に携わっている。

＝　ス　＝

水力発電と電力輸送

［梗　概］

＊「発電所の構造を線画によりて理解せしめ、実写場面を以て其実際を知らしめる。画面の発電機は最近の趨勢により特に竪型のタービンを用ひて説明してゐる。次で電力輸送の状況を示す。」（『教映ニュース』22号p18）

＊「山間に流れる川の水が水力タービンに到る迄の過程を示し、発電機は縦型と横型とを出し、数個所の変電所を経て一般需要家に送られる迄を、実写と線画とによって詳細に説明したもの。」（『教映ニュース』24号p13）

鈴

［梗　概］

＊「我家の台所、鼠たちに取っては極楽島であったが、不意に猫のお巡りさんが出現する。大恐慌を来した一同がちゑを絞ってポチ君に相談を持ち込み、猫に鈴を下げさせるといふ漫画。」（『教映ニュース』20号p15）

＝　セ　＝

聖上大島行幸

［梗　概］

＊「詩や伝説に富む噴火山の大島へ尊き御足跡を印したまふ御情景の数々及び大島の風物を収む。」（『教映ニュース』20号p16）

聖戦

［梗　概］

＊「この映画は徐州包囲戦に先だつ、皇軍の勇姿を見せ、やがて徐州入城と共に南北両司令官の歴史的会見となり、輝かしき大包囲戦の終る迄を詳細に描いたものである。」（『日本文化映画年鑑』p134）

［解　説］

＊「この徐州作戦を記録映画化する計画が持ち上がり、東日・大毎の後援を得て横浜シネマが、日中戦争最初の戦争記録映画『聖戦』を制作することとなった。カメラマンは上野幸清、越智賢次（助手）の２人で、毎日新聞社特派員の肩書を持ち、北京より南下し、徐州作戦をつぶさにカメラに収めた。後、青地忠三も現地を視察。同年11月17日、『聖戦』全８巻は松竹洋画系で封切られた。監督、編集、解説は青地が１人で担当した。」（『映像文化の担い手として』p35）

＊小宮多美江氏によると、原太郎（大原裕）氏作曲の「聖戦」の音楽は、後に「室内管弦楽のための小組曲」として、1938年12月19日に初演されている。また、安部幸明氏は園部三郎氏の依頼を受け、本作品の指揮を担当されたとのことである。

世界一周米国飛行機を迎えて

［解　説］

＊「ニューヨークでパテー・ニュース社に台湾のフィルムネガを販売することに成功した後、そこで佐伯は思いがけないビッグニュースを耳にした。このニュースは、パテー・ニュース社の編集者エマニュエル・コーン（後のパラマウント・ニュース社の創立者）から直接聞いたもので『アメリカ海軍の飛行機５機が初めて太平洋を横断し、日本へ飛来する』という情報であった。（中略）そのコースはアメリカ本土から出発し、アラスカを通りアリューシャン列島から当時日本の最北端の占守（シュムシュ）島を経由して、霞ヶ浦に到着し、さらに大西洋を横断する遠大な計画である。飛行隊は５～６機編成で、隊長はウェード・スミスであった。（中略）さて、佐伯は早速本社に占守島で、この太平洋横断飛行の模様を取材撮影するように打電した。電報を受け取った本社では直ちに海軍省に撮影許可願を出し、許可された。２月上旬、上野と相原は駆逐艦『時津風』に便乗し、下北半島大湊港から厳寒の北千島に向けて出航した。（中略）取材陣は、横浜シネマほか、朝日、毎日、報知、国民、時事の特派員計７～８人で、そのほとんどが船酔いの洗礼を受けた。食料の補給を受けるため寄港した北海道の花咲港で、相原は船酔いが治まらないため、残念ながら下船することとなった。（中略）冬の荒波を蹴って艦は北千島を北上し、パラムシル島に投錨し、アメリカのフォード駆逐艦とともに飛行機の到着を待った。飛行機は予定より３週間も遅れ、さらに到着当日アリューシャン地方が大シケに遭い５機中３機がようやく着水するというありさまであった。飛行機は単発の浮舟（フロート）のついた水上飛行艇であった。上野は１人で悪戦苦闘しながら、日米両艦員の歓迎ぶり、元気な飛行士の姿などをフィルムに収めた。」（『映像文化の担い手として』p13-14）

石炭

［梗　概］

＊「五学年理科十三科『石炭』に準拠して編輯したもので、石炭が出来るわけ、採掘法、坑内構成の種類分、石炭の利用」（『㊙映』66輯p52 ）

［解　説］

＊「石炭の生成と採掘」「石炭の利用」を纏めたもの。（『教映ニュース』22号p17 ）

石炭の利用

［梗　概］

＊「ガス会社工場の実写と模型的線画でガス製造の順序と其副産物の生成、ガス・コークス・タール・硫安等の利用を詳細に説明する。」（『教映ニュース』22号p17 ）

赤道越えて

［梗　概］

＊「後に特殊効果のパイオニアとして国際的に知られることになる円谷英二（1901～1970）が手がけた長篇記録映画。 1935 年２月に横須賀港を出港してインドシナ、マレー、ハワイ、南洋諸島を一循する海軍練習艦隊『浅間』、『八雲』の２艦に同行し、練習生の艦上生活をスケッチしつつ、寄港先の国々の民情風俗を紹介している。愛国志士を以て任じた太泰発声映画社長・池永浩久によって海軍少尉武富邦義や青地忠三が迎えられ、国防国策映画として構成された。」（『NFCｶﾚﾝﾀﾞｰ』97/2.3月号）

瀬戸内海の島々

［梗　概］

＊「絵のやうな内海の眺、美しい島々の風俗、そこに繞る伝説や踊を紹介せるもの」（『教映ニュース』26号p20 ）

戦雲漲る常総の野

［梗　概］

＊「昭和四年の秋畏くも大元帥陛下御統監の下に近衛、第一、第十四各師団約五万の将卒により最新兵器と近代戦術の粋を蒐めて行はれた未曾有の大立体戦。」（『教映ニュース』22号p16 ）

［解　説］

＊同時期（昭和４年11月16日、19日）に松竹キネマの「常総原頭陸軍秋期特別大演習」第一報、第二報が検閲を受けており、本作品も同地で行われた陸軍秋期特別大演習の様子を記録したものであろう。

＝　ソ　＝

空の桃太郎

［梗　概］

＊「南極に近いある平和な島に、一羽の猛ワシが突如現われ、ペンギンやアホウドリに襲いかかった。大さわぎの末、この島の代表者が、桃太郎にこの猛ワシ退治を依頼して来た。桃太郎は心よく引受け、お供に犬、猿、キジを連れ、勇ましく飛行機に乗って出かけた。途中、大亀の背中でガソリン給油、もう一度浮上する

鯨の背の特設石油スタンドから給油成功。南極へ到着した。猛ワシは突然、飛行機を襲撃して大空中戦が展開。しかし日本一の桃太郎にはかなわず、捕まった。桃太郎の飛行機は猛ワシをぶら下げて、祖国日本へ向った。」（『日本アニメーション映画史』P204）

［解　説］

＊「太平洋横断で世界中が血眼になった時でした。日本の土地を踏台にして飛出す連中は外国人ばかり、何といふ情ないことだ。何とかこれを題材に、日本の国威を示すような画をと考へた揚句が『空の桃太郎』になりました。ガソリンの海上補給など当時の問題をそのまゝ入れ込んだのです。大鷲退治と出かけたのは空の王者で威張ってるアメリカあたりを当込んだ気味もあります。空の桃君が意外にうけたのに気をよくして直ぐに『海の桃太郎』を考へて見ました。桃太郎といへばやっぱり何々退治と来なくては筋が収まらない。大鷲に対して大鮫と出たのですが、蛸が出たりふぐが出たり、潜航艇がまた特殊な興味をそゝったためか、空以上に海の方が喜ばれたようです。何かその内にもう一つ桃太郎君をわずらはして、昭和桃太郎の三部作を完成したいと考へてをります。」（村田安司「空の桃太郎について」『活映』63輯p31）

＝ タ ＝

鯛網とまぐろ船

［梗　概］

＊「鞆の浦における鯛網と、小笠原沖五百海里の山なす波頭を蹴立てて勇ましく活躍するまぐろ船の出漁を撮影した実写」（『フィルムライブラリー月報』４輯p1）

体育デー

［梗　概］

＊「動物園の休日、動物たちが体育大会を開く。猿の器械体操、ライオンと虎の剣道と柔道、白熊と河馬の水泳と高跳込み、全員の合同体操、カンガルーと豚の拳斗、そして最後に象対全員の綱引で終わる。」（『日本アニメーション映画史』P206）

大氷海

［梗　概］

＊「我特務艦大泊の樺太西海岸に於ける砕氷作業及び樺太内地の風景、ギリヤーク土人の奇習、馴鹿の雪橇等を収む。」（『教映ニュース』20号p17 ）

大礼大観兵式

［梗　概］

＊「我陸軍幾万の精鋭を集めたる代々木原頭大観兵式の盛観、天皇陛下には御愛馬初緑に召させられ、英姿颯爽、竜顔殊の外麗はしく拝し奉る。」（『教映ニュース』24号p10 ）

蛸退治

［梗　概］

＊「大ダコが畑の芋を盗みにやって来る。浜辺で遊んでいた猿たちが見つけ、木の実を投げつけて追払おうとするが、反対にタコに追いかけられる。子猿たちは相談の上、タコツボを作り、海中でタコを釣り上げる計画。ずる賢いタコはだまされない。ついに猿達は海中に潜り、大乱闘の末、タコの頭からツボをかぶせ脱げないようにする。ツボをかぶったままもがくタコは、猿共のはやし立てる唄につれとうとう踊り出す。」（『日本アニメーション映画史』P217）

蛸の骨

［梗　概］

＊「竜宮城の乙姫様の病気をなおすためには猿の生きギモが必要で、家来の蛸に使者の白羽の矢が立つ。蛸は目的地で猿をつかまえ、亀の背に乗せ、竜宮をめざすが、うっかり目的を話す。猿は猿智恵でうまく逃げる。失敗のお詫びに蛸は自分の骨を抜き取って去って行く。それ以来、蛸には骨がなくなったという物語。」（『日本アニメーション映画史』p 196 ）

［解　説］

＊「これまでの動画が、とかく絵の動きが粗く、完成度が低いものであったのに比較すると、この作品は密度が細かく、動きが自然であり、輸入動画に匹敵する出来ばえであった。（中略）もう一つの新しいアイデアは、この動画上演時に音楽をつけたことである。これを思いついたのは村田で、横浜本牧の外国船員が集まる酒場で、ジャズ音楽を聞き、そのリズムから海岸で動物たちがバンジョーなど

を持って踊っている場面や、月夜に猿が踊りだすシーンに合わせて、オデヲン座のボックスからレコード音楽を流したのである。動作とリズムが見事に一致したのと、筋書きやせりふはあったものの、弁士連中が即興でそれぞれの役に合わせてせりふを面白おかしくしゃべったのも評判を高めた原因となった。」（『映像文化の担い手として』p20）

タヌ吉のお話

［梗　概］

＊「お伽話のお爺さんがシャボン玉を吹くと、シャボン玉に手足が生え、沢山の狸になる。手をつないだ狸は証城寺の庭で狸囃子を始める。最後に吹き出されたタヌ吉のお腹は小さいので、皆のようにうまく腹鼓が打てない。悲しんだタヌ吉はその場を去る。途中で自転車の空気入れを拾い、お腹をふくらませている内に、空気を入れ過ぎ、フワフワと空に浮び上がる。とうとう月世界へやって来る。お月さんの忠告も聞かず自分の立派なお腹を世界中に見せびらかそうと、空を飛び回っているうちに、腹鼓を打ちすぎお腹を破裂させる。証城寺の庭に墜落したタヌ吉をお伽話のお爺さんはストローに吸いこんで、やさしくさとした。他人をうらやんでつまらぬ真似はするなというテーマ。」（『日本アニメーション映画史』P203-204）

珠を育てる話

［梗　概］

＊「これはわが国真珠養殖場の一つである志摩半島五ヶ所湾における人工真珠養殖の実況を収録し併せて同地の風光および海女の生活を撮影したもの。」（『大海フィルム・ライブラリー目録』p81）

太郎さんの汽車

［梗　概］

＊「汽車が大好きな太郎さんは、学校から帰ると友達を集め汽車ごっこをした。ある日お父さんがオモチャの汽車を買ってくれた。その夜は嬉しくてたまらず、汽車の夢を見る。太郎さんはその汽車の車掌で列車内で起こる事件のまとめ役をする。弁当を食べちらかしたり、バナナの皮を通路へ捨て、滑ったお客のけんか。窓から空カンやビンを捨てる。それが線路工夫の猿に当たり、猿は軌道車で列車を追いかけ、車内でけんかする。仲裁役は太郎さんだ。このけんかのため、汽車が脱線して夢からさめる。」（『日本アニメーション映画史』P198-199）

［解　説］

＊夢の部分のみ動画で、その他の部分は実写を使用している。ヨコシネディーアイエーの関係者の話によると、実写部分に登場する太郎さんとその友達は、佐伯永輔氏や親類の子供達が演じているほか、アニメ部分に登場するバナナの皮で滑る鶴の女性は村田安司氏の恋人がモデルになっていると伝えられている。

＝　チ　＝

忠吉は帰った

［梗　概］

＊「イソップ物語の『田舎の鼠と都会の鼠』の寓話を基として興味深く描教訓漫画。

華かな都会生活に憧れる田舎の鼠忠吉は東京銀座に住む叔爺を頼りに遥々上京したが恐怖と繁劇の都会生活を目のあたり見て田舎生活の平安さを知り再び故郷へ帰るといふ筋。」（『教育映画日録』p15 ）

＝ ツ ＝

月の宮の王女様

［梗　概］

＊「平和な美しい花畑の中にリスの町があった。町はずれに、いつの頃からか可愛い女の子が親切なリスのおばあさんに育てられて住んでいた。皆はこの子がどこから来たのか誰も知らなかったが可愛がっていた。ある日、おばあさんの留守に、近所に住む悪い蛙の大将が遊んでいる女の子を見つけ、さらって逃げる。それを見た隣家のリスは非常警報を鳴らし、全員、棒やクワを持って悪蛙を追いかける。途中、蛙とリスは激しい立ち回りを行うが、リスの大軍にかなわぬと見た悪蛙、池にとび込み子分の応援を頼む。リスの一隊は早速船を作って池の真中へ。しかし水上では蛙軍の方が強く散々な目に会う。一方、この近くへ雁がやって来て、そこにいたアヒルに『私は月の宮の使者だが、この辺で女の子を見なかったか』とたずねる。アヒルはリスのおばあさんが女の子を育てていることを想い出して話す。実は女の子は、月の宮の王女で、お守りの兎がうっかり目を放したすきに雲の間から落としたことが判る。事情を聞いた雁は池へ飛び、リス軍に加勢して蛙軍をやっつけ、王女を救う。王女とリスのおばあさんは、皆に見送られて、雁の背に乗り月の宮殿へ向う。宮殿では兎達が王女の無事帰還に大喜び。やさしいおばあさんのために歓迎会が開かれた。」（『日本アニメーション映画史』P211）

［解　説］

＊「村田安司の切り紙アニメの最高傑作といわれる作品。切り絵とは思えないほどでセル・アニメのようになめらかに動いている。」（『日本アニメーション映画史』P211）

＝ テ ＝

帝都

［梗　概］

＊「▲解説　T大東京の玄関　東京駅とその附近　○関西方面から東京に来る人、また東京から関西に行く人は、多くこの駅から乗降する　東海道線の起点にあたる　○東京ステーション・ホテル　○洋風建築並ぶ駅前通　T先づ宮城を拝して　○二重橋　○弁慶橋　T桜田門外より霞ヶ関へかけて　○攘夷論者は幕府の専断を非常に憤激し、水戸藩士佐野竹之助、薩摩藩士有村治左衛門等十七人大老井伊直弼を登城の途に要し桜田門外に刺殺した　○警視庁　○霞ヶ関通　T新装なれる帝国議事堂　T続いて日比谷公園へ　○都会人を慰める美しき花園　T南して芝公園と増上寺　○古い有名な建築、増上寺山門　徳川氏歴代の廟堂　廟堂は二代将軍を初め六代、七代、九代、十代、十二代、十四代の諸将軍の廟堂で、増上寺は関東浄土宗の総本山である　ＴＪＯＡＫ放送局　T愛宕山　○石段、馬垣平九郎馬で上る　T高輪泉岳寺　○大石良雄の銅像　赤穂義士四十七人の墓　線香

の絶間なし　T歩を北にかへして銀座へ　T築地附近の大劇場　○歌舞伎座　○東京劇場　T東海道の振出し　日本橋とその附近　○三越、白木屋　○三井、日本銀行　T上野　○西郷銅像、紙ツブテ、明治維新の功労者　遥かに市中を広く眺めることが出来る　○美術館　帝展、院展等、行ふところ　○東照宮、五重搭　徳川家康の霊を祀る　○帝室博物館　○清水観音堂　周囲桜が多く春は一番眺めよし　○不忍の池　蓮花の名所　弁天島に弁財天を祀る宮がある　長い橋は観月橋（現在はない）　T浅草　○仲見世通　東京名物の出店　○仁王門（只今修繕中）　○観音堂（只今修繕中）　十七間四面の大伽藍、中の本尊はたった一寸八分　○花屋敷　前の池に沿うて、芝居、寄席、活動写真など観覧物が多し　T御休憩はおすきな所で　○名物のニギリズシを食ふこともまたよろし　T隅田川　○隅田公園　○言問橋（こととひ）　○清洲橋　○駒形橋　T国技館　大角力のあるところ　T震災記念堂　○元被服廠跡、大正十二年九月一日の大震災の時、悲惨なる横死を遂げたる数万の人の霊を合祀する所　T靖国神社　○大村益次郎銅像　○わが忠勇なる戦死者を祀る　T赤阪離宮　T神宮外苑　○絵画館　○野球場　○ポプラの並木道、逍遥にまた格別　T明治神宮　○明治大帝を祀る　○遠足－旅行－参拝人の絶間なし　T都は花やかな衣の装ひに輝きそめる　○夜の銀座　花やかな銀座　人々の浮れる銀座　赤い火　青い火　ネオン　かくて帝都は新らしい日を迎へ限りなき進展を目指して」（『映画教育』43輯p38 ）

凸之助武勇伝

［梗　概］

＊「鞍馬山の奥深く大天狗について武術を習う少年凸之助は修行のかいあって、ついに恩師の鼻をへし折るまで上達した。師の許しを得て諸国武者修行に旅立つが、道中三人組のゴマのハエのからくりに引っかかり、身ぐるみはがれる。たちまち武勇を発揮し、一味を捕え、城下町の辻にしばりつけ、立札に『コノ三ニンハ、ゴマノハエナレバ、ハエタタキニテタタクベシ』と書置いて旅立つ。」（『日本アニメーション映画史』P217）

電信・電鈴・電話

［梗　概］

＊「尋常小学校第六学年理科書に準拠して製作された教科フィルムで電磁石、電池、発信器、受信器の局部的の説明からそれが如何にして通信作用を営むかを線画をもって図解しさらに電話機の構造、機能、原理におよびさらに電鈴に関する図解もあり、純粋教材フィルムである。」（『映画教育』44輯p33 ）

電灯

［梗　概］

＊「尋常小学読本中の『人と火』や理科書中『電灯』等を主題とし、太古よりの灯火の発達よりはじめ、発電より電球の製作に至るまでを実写、線画にて説明せるもの」（『映画教育』43輯広告）

＊「この灯火の長い歴史を第一巻に収めて、第二巻目は水力発電所の機構から高圧線、変圧、変電所、各軒への電流配給、さらに、電球の製作過程を表現してゐる。」（『映画教育』44輯 p33）

＊「先づ発火法と灯火の変遷発達の過程を実写及線画によって順次に解説し、次に前記の『電球の造り方』、『水力電気の話』を纏めたものである。」（『教映ニュース』22号p18 ）

［解　説］

＊「尋常小学校第六学年読方および理科教材映画で、前記の『電信、電話、電鈴』とともにこれまた全日本活映教育研究会が指導製作せしめたものである。」（『映画教育』44輯p33 ）

電話機

［梗　概］

＊「先づ電磁石の機能を説明し、之を応用した電話機の原理、構造、作用につき巧妙な線画と、適当な実写を併せて、平易に懇切に説明したものである。』（『教映ニュース』24号p12 ）

＝　ト　＝

東京から青森まで

［梗　概］

＊「尋常小学校読本巻九『東京から青森まで』の一課を骨子として上野駅を振り出しに東北本線を北上し青森に至るまでの間の各地の風物、史蹟、温泉等を写したものである。（中略）汽車は先づ上野駅を発し見渡す限りの大平原関東平野を縦断して進む。阪東太郎利根川の鉄橋を渡ると栃木県々庁のある宇都宮市である。こゝは更に日光線の分岐点で…と処々に地図を挿入して極めて平易に分り易く説明してある。勿論、国語読本に準拠して製作されたものであるから読本中に書かれてある限りの風物、都会、史跡は画面中に収録されてはゐるが純粋に地理科の教材として見るときには或程度、不満があるかもしれない。」（『映画教育』44輯p33 ）

［解　説］

＊「これは全日本活映教育研究会が『教科目に応じたフィルムの製作』を具体化して、その第一回作品を横浜シネマに撮影せしめたものである。」（『映画教育』44輯p33 ）

東京近郊めぐり

［解　説］

＊「鉄道省国際観光局から本格的なトーキー映画の発注があった。（中略）佐伯は持ち前の性格からこの観光映画に異常なまでに熱意を傾注し、ロケーション先の旅館までしばしば長距離電話をかけ、撮影班を叱咤激励している。（中略）その後鉄道省の観光映画は、横浜シネマとＰＣＬの両社でそのほとんどを制作するに至る」（『映像文化の担い手として 』p23-24）

東京見物

［内　容］

＊追浜飛行場（離陸風景）、江ノ島、横浜（横浜正金銀行、大桟橋）、品川、両国

国技館、浅草観音、十二階、上野公園、不忍池、日本橋、三越、新橋、銀座、丸ノ内、東京駅、靖国神社、明治神宮、追浜飛行場（着陸風景）

［解　説］

＊「関東大震災の直前の12年７月、海軍発祥の地である追浜の横須賀海軍航空隊に出入りの許可をもらった。（中略）業務の目的は、当時、わが国唯一の飛行船（海軍では航空船と言った）であったＳＳ３号に乗って『東京見物』という一巻ものを制作することにあった。（中略）撮影は上野が担当し、上野公園、浅草、隅田川沿いに上空から東京の中心部をくまなくフィルムに収めた。この飛行船を操縦したのが、太平洋戦争末期、特攻隊の生みの親として知られた大西滝治郎中将（当時大尉）であった。（中略）この撮影は関東大震災で大被害を受け、廃墟と化す直前の東京、横浜の姿を余すところなくとらえており、貴重な記録フィルムとして、震災以後の帝都の復興に大いに役立った。このフィルムは現在も東京大学に大切に保管されている。」（『映像文化の担い手として』p8-9）

＊ヨコシネディーアイエーに保存されているフィルムでは「飛行船による震災前の京浜」（上映時間10分）というタイトルになっている。なお同フィルムでは飛行船上に佐伯永輔氏らしき人物が写っており、氏も上野幸清氏と共に撮影に同行した可能性がある。

東京御発輦　御大典第一報

［梗　概］

＊「輝く昭和の御即位式に京都への行幸、宮城より鹵簿の厳かなる御進発と東京駅より御召列車の御発輦模様を謹写せるもの。」（『教映ニュース』20号p16 ）

東京市奉祝会　御大典第五報

［梗　概］

＊「御大典を寿ぐ東京市奉祝会へ両陛下行幸啓の御模様と、大音楽隊の市中行進、花電車、花自動車の行進等官民一致の奉祝状況を収めてゐる。」（『教映ニュース』24号p10 ）

東大寺

［梗　概］

＊「奈良東大寺の全貌を歴史的建築的立場から解説撮影し、お水取り以下の行事も取入れてある。教材的価値十分。」（『日本教育映画発達史』p156）

灯台の話

［梗　概］

＊「海の交通になくてはならぬ灯台と其他の航路標識について其種類、沿革、機構、職能、無線方位信号、看守人の職務等を詳説してゐる。」（『教映ニュース』22号p18 ）

＊「灯台の話はまづ灯台は航行する船の道しるべである、といふ所からはじまる。しかし船の道しるべは灯台だけではない。最も簡単なものでは澪標（みをつくし）浮標（ぶい）桂灯浮標（灯火のつく浮標）灯標（番人のゐない小さな灯台）導灯、以上は発生的に見た灯台の進化論。つゞいてわが国の灯台の簡単な歴史がある。古くは海岸の神社の高灯籠、一例としては摂津住吉神社の高灯籠が画面に現はれる。明治二年相州観音崎にはじめて洋式の灯台ができた。それから今日までに約

三百七十の灯台が出来てゐるのである。その代表的な一つである銚子犬吠崎の灯台を見学することになる。」（『映画教育』56輯p27 ）

［解　説］

＊「全日本活映教育研究会ではオーヴァ・ザ・ヒルを推薦したのを機として、この映画を大阪松竹座で上映させた。果然、観衆をこの異様な映画の出現に眼を見張ったがやがてその眼は驚嘆に変った。この種の映画の生命がやがて観衆の心の鼓動に触れたからだ。」（『映画教育』56輯p27 ）

東日大毎国際ニュース

［解　説］

＊「横浜シネマとニュースとの関係は10年に入ってからのことで、最初は毎日新聞社のニュースフィルム現像であったが、同年７月、『東日・大毎国際ニュース』に参画し、さらに同社が陣容を強化することとなり、次いで翌11年より週刊ニュースとして定期化するに伴って、現像プリントと録音を横浜シネマが受注したのである。」（『映像文化の担い手として 』p33 ）

＊昭和12年に横浜シネマ商会美術部に入社した岡本昌雄氏は、「大毎・東日ニュース」の地図やタイトル製作を担当している。（岡本昌雄『文化映画時代』p44 ）

動物園見物

［梗　概］

＊「上野動物園に棲む各種の動物を教材的に趣味的に撮影せるもの」（『映画教育』44輯広告）

動物オリムピック大会

［梗　概］

＊「動物達のオリンピックが開かれ、象、カバ、猿、豚、兎、ブルドッグ、アヒルの各選手が出場。棒高飛びは猿君が優勝。円盤投げは象君の投げた円盤がＵＦＯみたいに山を越え雲の中に。800m決勝で大接戦を演じていた猿とブルは、レース途中でケンカ。優勝をアヒルにさらわれる。一等の象君に優勝カップが渡され、皆が胴上げして祝福するが、象の下敷きになってしまう。」（『日本アニメーション映画史』P197）

［解　説］

＊「これまでの村田作品は既製のおとぎ話に忠実すぎて、ギャグも少なかったが、この作品ではオリンピックをテーマに、動物の擬人化が巧みでギャグも見られる様になった。」（『日本アニメーション映画史』P197）

図書館

［解　説］

＊「発声二巻、無声一巻として昭和十四年十一月完成、監督北零人、撮影喜多村幸次郎、図書館内の撮影は主として東京市立駿河台図書館によった。この映画の発声版は『僕らの図書館』と改題して映画館に配給され、無声版は学校巡回映画連盟の昭和十四年度第三回配給プログラムに組み入れて全国に配給された。なお『図書館』のシナリオは『映画教育』昭和十四年十月号（中略）にそれぞれ発表された。」（『映画教育運動三十年 』p341）

瀞八丁

［梗　概］

＊「源を大和アルプス連峰大台ヶ原山に発する熊野川の渓谷にある天下の奇勝、瀞八丁を芸術的に撮影したもの。」（『教映ニュース』22号p16 ）

豚平と猿吉

［梗　概］

＊「ある森に怠け者の豚平と、正直で働き者の猿吉が住んでいた。豚平は仕事もせず猿吉をだましたり、猿吉の子供をいじめたりした。ある日、おこった猿吉に手痛い目にあったのを根に持ち、森のライオン大王をおだてて、猿吉に戦闘をしかけて来た。猿吉は苦戦。ついに退却する。最後の鉄条網も破られ、追いつめられた猿吉。みるにみかねたモグラは、塹壕を掘り、敵の大軍を防ぐ一方、地下道を深く掘り下げ、ライオン軍の司令部の真下に爆破装置を仕掛けた。やがて大爆発。ライオン大王はじめ豚平軍吹っ飛び、正義は勝った。」（『日本アニメーション映画史』P206）

＝　ナ　＝

長門の叔父さん

［梗　概］

＊「戦艦『長門』の機構とそれに装置された四十糎巨砲の威力。艦上生活の愉快さが『長門』に乗組の叔父さんから面白く話される。」（『教映ニュース』26号p19 ）

＊「これは実写と劇とを巧みに織りなして、軍艦とは、また軍艦生活とはどんなものかを平易にわかり易く現はしたものである。軍艦『長門』乗組の叔父さんが文子、武雄の姉弟に軍艦の総てを説明する（後略）」（『活映』66輯p51 ）

奈良

［梗　概］

＊「尋常小学国語読本巻十二『奈良』によりて編輯したもので、興福寺の塔、猿沢の池、春日神社、若草山、手向山八幡、大仏、法隆寺等幾多の美はしき絵巻物を展開する。」（『教映ニュース』24号p11 ）

南洋群島

［梗　概］

＊「海の生命線南洋群島の風景および風俗を撮影せるもの。サイパン島、ヤップ島、パラオ島、パパイヤ、バナナ、パンの実、カヌー、熱帯地のスコール、祝ひのおどり、カヌー競技など、国語読本『南洋』の教便となる。」（『活映』66輯p52 ）

＝　ニ　＝

新潟と佐渡

［解　説］

＊「札幌と十勝」解説を参照のこと。

日米水の精鋭

［梗　概］

＊「伯林に於けるオリムピック水上競技は日米の争覇戦でもあった。本映画はその

前哨戦ともいふべき日本対抗水上競技大会に於て，代表選手の美技力泳振りを、随所に高速度撮影を用ひてコーチ的に紹介したものである。」（『教映ニュース』22号p19 ）

日光大観

［梗　概］

＊「東照宮を中心とする下日光。華厳滝、中禅寺湖を中心とする中日光。戦場ヶ原、湯の湖を中心とする奥日光を收む。」（『教映ニュース』20号p16 ）

＊「日光駅▲駅から右へ一筋爪先上りに日光の町▲土産物売る家がつゞく▲町の尽くる所に大谷川▲その上にかゝる神橋▲輪王寺▲東照宮への表参道▲大鳥居と五重塔▲表門▲三神庫▲神厩▲三猿の彫刻▲お水屋▲陽明門▲唐門、拝殿、本殿▲神輿舎、神楽殿▲眠猫の彫刻▲二荒山神社▲三代将軍の大猷院廟奥の院▲馬返しの宿▲方等の瀑▲太平▲華厳の滝▲中禅寺湖▲歌ヶ浜より男体山を望む▲戦場ヶ原▲湯滝▲湯の湖▲湯元温泉▲姫鱒の群」（『映画教育』37輯p36 ）

二枚貝

［梗　概］

＊「蛤の運動、呼吸消化の有様を示し、大捲による捕獲の方法、缶詰や貝灰の製造を紹介。次に牡蠣の卵の受精、分裂から成長への過程を示すに顕微鏡撮影を用ひ、牡蠣及真珠貝の養殖を詳説してゐる。」（『教映ニュース』20号p18 ）

＝　ネ　＝

鼠と獅子

［梗　概］

＊「森の王様ライオンに助けられた鼠は、他日わなに引掛ったそのライオンを自分の仲間と共に助けてやるといふイソップの寓話を漫画化したもの。』（『教映ニュース』24号p10 ）

［解　説］

＊「小学国語読本巻一にあるイソップの寓話、シシとネズミを漫画化したもの。」（『教映ニュース』22号p14 ）

＊「横シネの動画は従来、村田安司の独占みたいな状態だったが、片岡芳太郎が加わって第一作（編者注：「鼠と獅子」）を発表。村田、片岡時代を迎える。」（『日本アニメーション映画史』P211-212）

＝　ノ　＝

のらくろ伍長

［梗　概］

＊「猛犬連隊の兵営。今日は休日で、のらくろ伍長は暇をもて余していたが、焼鳥が食べたくなり、近所の屋台へ。焼鳥屋とおやじのお世辞で、のらくろは山猿連隊と銃剣術の試合で勝った武勇伝を一席。話に夢中で焼鳥を五人前平らげ、連隊長へお土産の一折を持って公園まで来ると急に眠くなる。付近にあった屑入れの中で昼寝。夢で山猿連隊の兵士二人が、猛犬連隊の機密書類を盗んだのを発見。

追跡するが、山猿二人組は気球にのって逃げる。のらくろ、花火工場から花火を持ち出し、気球めがけて打ち上げるが当たらない。最後の手段と自分自身、花火の筒に入って気球に飛び込み、無事書類を奪い返し、パラシュートで着陸。夢からさめてみると、奪い返した書類としっかり抱いていたのは焼鳥の折詰で、ふと時計を見ると門限まであと五分。営門めざして一目散。」（『日本アニメーション映画史』P210）

のらくろ二等兵・教練の巻

［梗　概］

＊「野良犬の黒吉（のらくろ）の軍隊生活での教練、演習の失敗を動画化したもの。」（『日本アニメーション映画史』P208）

＝　ハ　＝

花の京都

［梗　概］

＊「春の祇園、円山、嵐山、花に競ふ洛中、洛外昔ながらのみやびやかな花の京都を余蘊なく描写してゐる。」（『教映ニュース』22号p16-17）

パナマ運河

［梗　概］

＊「ニューヨークを出てハバナに寄港しパナマ運河を通過して太平洋に出づるまでの実写にしてパナマ運河の全般を最も巧妙な線画および模型によりて完全に説明したるもの」（『活映』68輯p42 ）

［解　説］

＊「全日本活映教育研究会指導の下に尋常小学国語読本巻十『パナマ運河』に拠って製作したる学校教科フィルムである。」（『大毎フィルム・ライブラリー目録 』p80 ）

＊『日本教育映画総目録』p69 には同名の米国映画が掲載されている。本作品との関連は不明である。

浜口内閣所信表明演説

［解　説］

＊「横浜シネマが最初に16mmトーキーを使用した作品は、浜口内閣の主要大臣の所信表明演説であった。浜口雄幸は、４年７月、田中義一内閣に代わって組閣、翌５年１月、金解禁と緊縮財政を実行、第57議会を解散し、２月の第２回普通選挙に臨んだ。この時、金解禁策を成功させることと経済恐慌を乗り切るため是非とも総理大臣以下の主要閣僚の談話をトーキー映画として、全国的にＰＲしようという企画が小西六から佐伯に依頼されたのであった。」「マイクの前に座ったのは、総理大臣浜口雄幸、大蔵大臣井上準之助、内務大臣安達謙蔵、商工大臣俵孫一の順で、各大臣が５分ずつ吹き込んだ。カメラマンは、飯田光治、上野幸清が当たった。撮影は、次室からガラス越しに行われたと言われる。」（『映像文化の担い手として 』p22-23）

＝　ヒ　＝

飛雪を浴びて

［梗　概］

＊「温い都を後に積雪深いスキー場を訪ねて集めた雪の抒情詩。雪の楽園に高松宮の御成り。御前に神技を揮ふ来朝中の北欧スキー選手。雪！雪！飛雪を浴びてスキー行進曲。」（『大毎フィルム・ライブラリー目録』p61）

雲雀の宿替

［梗　概］

＊「イソップ物語の“雲雀とその子”から題材を得たもので、麦畑のひばり一家が、麦の刈入れで引越し準備をする。畑の持主が近所の人を刈入れの手伝に頼むがダメになる。今度は親類を頼むがダメ。他人を当てにせず、明日は主人と息子で雨が降ってもやるという言葉を聞いて、ひばり一家は引越しする。他人の力を頼るなというイソップの教訓を描いたもの。」（『日本アニメーション映画史』P208）

豹の斑はかうして出来た

豹の斑はどうして出来た

［解　説］

＊『映画検閲時報』第２巻p754では米国ブレー映画社製作となっている他、『日本教育映画総目録』p90 、『映画検閲時報』第10巻p616では米国エジケーショナル社の製作とされており、同名の米国映画（の改作）の可能性があるので注意が必要である。なお『ジラフの首はなぜ長い』の解説も参照のこと。

＝　フ　＝

富士

［梗　概］

＊「東京近郊立川飛行場を離陸して富士山頂を旋廻飛行して撮影した富士山の鳥瞰図に、その山麓よりの登高状況を配せるもの。」（『大毎フィルム・ライブラリー目録』p82）

富士三態

［梗　概］

＊「春・夏・冬に於ける三様の富士を撮影せるもの。」（『教映ニュース』20号p14）

＊「六根清浄のかけ声勇ましく登山する夏の富士、飛行機上より見たる白銀に輝く早春の富士、総てが氷雪に包まれた冬の富士を紹介する。」（『教映ニュース』22号p15）

二つの世界

［梗　概］

＊「『蟻と螽斯』の寓話を基として蟻の勤勉と蛙、螽斯蝶等の安逸放縦の二つの生活を対照して『夏歌ふものは冬泣く』といふ勤倹力行の精神を何人にも容易に会得し得らるゝやう興味深く説示した教訓漫画。」（『教育映画目録』p14）

冬の富士

［解　説］

＊「『冬の富士』は気象庁の富士観測所が開設された年、二月上旬、御殿場口から

強力、登山案内人と共に登りました。これは冬の富士登山では日本でも初めてのことでした。」（上野幸補『カメラをかついで五十年』p40）

文福茶釜

［梗　概］

＊「ワナにかかった狸を屑屋が助ける。茶釜に化けた狸は屑カゴに入る。屑屋は近くのお寺の和尚に売る。和尚が居眠りしている間に、お菓子を食べようと小僧達がしのび込むと、先に茶釜の狸が食べている。驚いた小僧達が茶釜をつかまえ大騒動の末、屑屋へ返される。屑屋へ戻った狸は助けてもらったお礼に見世物で綱渡りを演じ大入り満員、屑屋は大金持になった。」（『日本アニメーション映画史』p197）

＝　ホ　＝

望遠鏡

［解　説］

＊「発声・無声各一巻で昭和十四年四月完成、監督三枝信太郎、撮影喜多村幸次郎、学校の場面にはシナリオ原案執筆の長谷川和夫氏（当時四谷第三小学校訓導）とその担当児童が出演し、また天文台の場面は京都帝大の花山天文台で、台長上田穣理学博士ほか職員の指導によって、全日本映画教育研究会関西本部幹事の星野幸雄氏が天文台員になって出演しているという、なつかしい映画である。なおこの映画の発声版は『東日映画読本』の一編に加えられて映画館に上映され、無声版は学校巡回映画連盟の昭和十四年度第一回配給プログラムに組み入れて全国に配給された。」（『映画教育運動三十年』p341）

法隆寺

［梗　概］

＊「我国最古の木造建築物、推古様式の金堂、五重塔中心の西院と、天平様式の夢殿中心の東院の外観、内部を撮影せるもの。」（『教映ニュース』30号p16）

北進日本

［梗　概］

＊「これは北緯五〇度の国境標識を境とする日本領樺太及び千島列島に長期ロケーションして、北方領土における林業や漁業の開発状況を美しいカメラに収めるとともに、郡司大尉の報効義会の壮挙をとり入れて、国防上この地点がいかに重要であるかを歴史的にも示している。」（『日本教育映画発達史』p79）

＊「内容は氷点下35度を超える厳寒の樺太森林地帯を、雪煙をあげながら驀進する蒸気機関車のシーンから始まり、紙パルプの原料となる高さ30メートルもあるトド松の勇壮な伐採、夏の静まり返ったツンドラ地帯の風景、トナカイと一体となったギリヤーク族の珍しい生活、ロシア（旧ソ連）との国境線の状況。海上ではオホーツク海に浮かぶ海豹島のオットセイの大群棲の生態、日魯漁業の母船『信濃丸』に便乗しての蟹工船の活躍、マッコウクジラの大群を追う捕鯨船団の活動など、当時としては目新しい場面を多く収録した。」（『映像文化の担い手として』p29）

［解　説］

＊「昭和９年１月から８月まで大がかりな長期ロケーションが敢行された。ロケ隊

は、第１次、第２次に分けられ、１、２班を編成し別行動で撮影が開始された。第１次撮影隊第１班は１月上旬に横浜を出発、樺太の国境までの各地を撮影し、この間、第２班は北洋警備の駆逐艦『神風』（艦長山口少佐）に便乗、大湊を出航し、千島方面を撮影した。第１次は佐伯永輔を総指揮とし、チーフ・カメラマン上野幸清、北川二和、録音矢野弘、助手佐藤英司、連絡係松村太郎がそれぞれ担当した。第２次撮影隊第１班は４月出発、千島の春を撮り、第２班は樺太の春、続いてカムチャッカ半島の春と夏、さらに夏の千島を撮り、８月中旬にやっとロケを終え横浜に帰港した。（中略）この長期ロケには聞きしにまさるに苦労話が多く、特に第１次撮影隊では、零下50度という寒さとの戦いは言うまでもなく、録音に使用する蓄電池の凍結防止に苦心、また、２月には北千島の火山の撮影を終え、オンネコタンを横切って太平洋上250 海里に出た時、猛烈な暴風雨に巻き込まれ、さらに航海中に流氷にぶつかりそうになったり、独航海で沖合まで出たところ、濃霧に囲まれて数日間母船に帰れず、遭難寸前という危険な目にも遭った。（中略）撮影日数実に230 日、全行程２万１千マイルであった。これは約９千フィート、10巻にまとめあげられた。この映画の特筆されるべき点は、山田耕筰作曲（作詞酒井江南海軍少佐）の『北進日本の歌』と、主題歌『白樺の森』（作曲杉田良造、作詞酒井江南）の音楽が付けられたことである。」（『映像文化の担い手として』p29-30）

＊『オデヲン座ウキークリー』第559 号の次週予告では、「北を見よ！！危来るべき国際危機一九三五・六年を前に吾等はこの映画により北方の現実を注視し・その認識を深め重大なる決意を定めねばならぬ。」と本作品の意義を強調している。「アラスカに集注されつゝあるアメリカ航空界の異常なる努力」やソビエトによる「極東漁業の独占」への企てが、危機意識の背景にあった。

＊昭和９年10月12日正午より、丸ノ内東洋軒にて「北進日本」をめぐっての座談会（主催　全日本映画教育研究会）が開催された。横浜シネマ商会からは、佐伯永輔、青地忠三、上野幸清、矢野弘、松村太郎、飯田光治の各氏が出席した。その内容は『映画教育』第81、82輯に収録されている。なお同誌第82輯 p26-27 に青地忠三氏が「編輯者として」と題する一文を寄せている。

＊一般公開に先立ち、丸の内工業倶楽部（昭和９年10月11日）、帝国劇場（同月12日）にて試写会が開催された。（『映画教育』81輯 p37）

僕等の図書館

［梗　概］

＊「登君は姉さんや弟とハイキングに行き珍しい蝶を見付けたが誰もその名を知らないので、姉さんに連れられて初めて図書館に行く。そして児童室や特別室のあることも知り、蝶の名前を調べる為に目録室で理学の部を探してゐると事務員の人が親切に探してくれた。その本の名を用紙に書き込んで貸出しを頼む。その間姉さんは婦人室で読書してゐる。登君は必要なノートをとり、児童室から面白い本を借出して喜び勇んで家に帰り、自分の本棚も綺麗に整理するといった形式で図書館の組織、機能を紹介読書の趣味を勧める。」（『文化映画』昭16･3 p81 ）

捕鯨船

［梗　概］

＊「内容は潮を吹き上げながら遊泳する大鯨群を追って、群れに突っ込んでいく捕鯨船の上で、慌ただしく準備に動き回る全船員の姿。目指す鯨を狙ってまさにモリを発射しようとする射手の緊張した顔。発射音。モリとロープが生き物のように空中を飛び、そして鯨に命中。モリを打ち込まれた鯨は必死に海中へ潜って逃げ回る。他の鯨の群れも危険を感じて一斉に姿を消す。海上は一瞬森閑と静まり、モリにつながれたロープを巻くウインチの音だけが聞こえる。鯨の弱るのを待って船に引き寄せ、ドラム缶のブイに目印の旗を立て鯨につなぎ、海上に浮かばせておき、帰港の際船腹にくくりつける。」（『映像文化の担い手として』p26）

［解　説］

＊「撮影は宮城県金華山沖で、基地は牡鹿半島の鮎川という小さな漁港であった。黒潮に乗ってやってくるマッコウクジラを目指し、上野は120 トンたらずの捕鯨船上で約40日間、太平洋の荒波と闘ったのである。（中略）この映画の最大の特徴は、これまでの海洋映画になかった鯨の大群の遊泳シーンにあった。（中略）大群の遊泳シーンは、海洋ものの劇映画に幾度となく利用されたほか、ニューヨークのパテー社の『パテーレビューマガジン』にも採用され、世界中の人達を驚かせた。日本では『捕鯨船』の内容が、小学校国語読本にも掲載された。」（『映像文化の担い手として』p26）

＊「待つこと久しく、七航海四十日目のその日は朝から凪ぎの晴天日でした。午後一時頃、見張り員からの声が一段と高く、『鯨の群れが見える』との声で、全乗組員の活動が始まりました。私はカメラを甲板に持ちだして、チャンスを狙っていました。船の前方から、左右海上一杯に幾十組かの鯨の群れが潮を吹きながら、遊泳する有様は誠に壮観でした。捕鯨に長い経験を持つ乗組員達も、このような大群に遭遇したのは初めてだと言って、喚声を上げていました。私もこのチャンスとばかりに撮影し続け、想像以上の取材が出来ました。長い待機の苦闘もすっとんでしまいました。（中略）横浜に帰って、フィルム編集に入ってよかったことには、いろいろな場面を十分に撮影していたので、自在な編集が出来て、短編映画としては迫力ある作品と評価されました。」（『カメラをかついで五十年』p41-43）

＊『日本の映画音楽史』1　p205,234には、「捕鯨」（1938年、上野幸清監督、原太郎作曲）という横浜シネマ商会の作品が掲載されている。「捕鯨船」のアフレコ版であろうか。

北海道の話

［梗　概］

＊「尋常小学国語読本巻十一、第十四課『北海道』に準拠して、全日本活映教育研究会指導のもとに製作された、横浜シネマの作品。まづ札幌市街の空中撮影にはじまり場面は一転して同市街のアカシヤの並木路などの紹介があって同市外真駒内、月寒の牧場の北海道の象徴ともいふべき悠容たる情緒、滝川駅、狩勝峠、サホロ岳連峰。こゝで読本中に書かれてゐるやうな『はるかの下に一条の白煙をたなびかせて見えがくれする上り列車』の撮影などあって、十勝平原、十勝川の舟

行。そしてこのあたりに行はれてゐる大農式耕作法の紹介がある。そこで国語読本は『北海道』を結んでゐるがなほすすんでこの地方の特産物の鮭の採漁、根室港の風光などを収録撮影してある。巻中諸所に地図を挿入、国語読本の文章、字体までに注意を払ってあり、教科フィルムとしてまことに申分のない作品である。」（『映画教育』46輯p34 ）

［解　説］

＊『映画教育』第45輯（昭和６年11月）によると、「村田安司氏の漫画『空の桃太郎』一巻を完成、教科映画『北海道』は撮影を終り目下編輯中」とある。

保津川下り

［梗　概］

＊「丹波の亀岡から新緑の岩壁を縫ひつゝ急湍を下ること約五・五粁、奔流岸を噛み、岩に激する中を下る壮快なる画面。」（『教映ニュース』22号p17 ）

［解　説］

＊「時として佐伯自らがカメラを回すことがあった。その中から生まれたのが、傑作『保津川下り』（SHOOTING ON HOZURAPID ）である。（中略）カメラは当時、最新式と言われたフランスのデブリー製のパルヴォである、祇園の舞子をモデルに撮影したもので、当時、パテー・ニュース社に900 円（450 ドル）で売却している。」（『映像文化の担い手として 』p13 ）

ホームラン

［梗　概］

＊「お猿と白熊の野球戦、お猿軍はすでに八回表で八点の負け越し。食堂でラジオを聞いていたまかないのおばさん猿は、タクシーを乗り継いで野球場に駈けつけ、人参の栄養剤を届ける。猿軍、元気百倍、九回裏にホームランを連打、九点を入れ優勝する。」（『日本アニメーション映画史』P209）

＝　マ　＝

まぐろ船

［梗　概］

＊「斯界の圧倒的絶賛を浴びたサクラグラフ『捕鯨船』の姉妹編。小笠原沖五〇〇海里に活動する『まぐろ船』の実況。先づ温度計を以て水温を調べ、鰯を餌に愈々漁が初まる。まぐろに交って一間以上の大鮫も上げられる。」（『映画教育』38輯広告）

マレー沖海戦

［解　説］

＊「『桃太郎の海鷲』が真珠湾攻撃を描いたのに対し、マレー沖海戦の成功を影絵映画で表した。『桃太郎－』における動物の擬人化と違い、山本五十六等を人間のまま影絵化したことと、戦争というテーマが大藤氏の作風とマッチせず、今観ると悪夢を見ているような感じの作品である。」（『日本アニメーション映画史』P230）

＊「さらに本社敷地の北側倉庫前に新たに木造２階建ての作業所を建設、千代紙、シルエット手法の映画制作の研究室を作り、もっぱら海軍の術科映画の制作に使

用した。（中略）こうした技術が発揮されて作られたのが、シルエット映画『マレー沖海戦』である。」（『映像文化の担い手として』p38）

満州国皇帝陛下御来訪

［梗　概］

＊「新京御出発より横浜港御上陸、秩父宮殿下の御出迎、東京駅にて聖上陛下との御対面、赤坂離宮に御着、代々木練兵場に於ける御閲兵式の壮観。」（『教映ニュース』24号p12）

＝　ミ　＝

南十字星は招く

［梗　概］

＊「神戸出帆から東支那海、喜望峰を経て太西洋を横断し、ブラジルの首都リオ・デ・ジャネイロを訪問し、南米在住邦人の活躍状況を記録する」（『日本教育映画発達史』p123）

＊「まず独立祭とカーニバルで賑わうブラジルの首都リオデジャネイロから、サントス。それからペルー、チリをまわり、アルゼンチンから再びブラジルに入って、アマゾン河をさかのぼり密林地帯に入る。各地の珍しい風習や雄大な大自然の描写に加えて、各方面で活躍する日本人の姿を紹介、中でも広大な農場を経営する南米きっての成功者・伊東博士の姿が印象だった。」（『日本映画作品全集』p245）

＊「これは船で、汽車で、飛行機で、そして徒歩で隈なく探った若き大陸南米の活きた姿である。神戸出帆、東支那海印度洋、喜望峰の港々を瞥見して大西洋を横断、船はブラジルの首都リオデヂャネイロを訪れる。折しも南米独立祭に当り、街は軍隊パレード、カーニバルなどで賑はってゐる。続いてサントスに着き、サンパウロのコーヒー園目指す「蒼氓」の人々と共に上陸する。新興大陸南米全土を地図で眺め、先づカメラはピルーに向けられる。こゝは邦人最初の植民地がある。無邪気に戯れ遊ぶ邦人第二世小学児童、祖国と同じラヂオ体操の号令が耳朶を打ってくる……。」（『オデヲン座ウヰークリー』690 号）

［解　説］

＊「当時、拓務省は海外への移民に力を注ぎ、特に南米ブラジルへの開拓移民を積極的に勧誘していた。そこで同省は海外で働く移民の状況とその発展ぶりを、南米各地の風物・産業を織りまぜて描いた国策的映画を作る企画をたてた。（中略）しかし、当時この遠大な計画を実行に移すだけの予算は拓務省にはなく、紆余曲折の結果、外務省が一口乗るということで話がまとまった。だが、厳しい予算には変わりなく、佐伯が自らカメラマンを買って出るほどの窮屈さで、同行者は上野幸清ただ１人という長期ロケであった。（中略）昭和11年５月17日、上野は横浜港を大阪商船の移民船『ブエノスアイレス』に乗って出航した。佐伯は途中の神戸港から乗船、船中ではポルトガル語の学習を移民と一緒に続けながら、香港、シンガポール、スリランカ、インド洋を南下して南アフリカのダーバン、そして南アフリカの最南端ケープタウンを経て、大西洋を横断、７月30日、ブラジルのリオデジャネイロに入港した。２人はブラジルをはじめ、チリ、アルゼンチン、

パラグアイ、ウルグアイなど、南米諸国を精力的に回り、その国々の風物・産業・生活など約６万フィートという膨大なフィルムに収めた。サンパウロでは広大なコーヒー園で働く邦人移民の現状をつぶさに撮影したほか、かつてドイツ・フランスの撮影隊が失敗したアマゾンの鰐狩りに20人の現地人を使って成功、さらにアマゾンの奥地まで足をのばし、インディオの踊り、チリ硝石産出地帯の空中撮影、そして雪の大山脈アンデス山脈を越え、チリの首都サンチアゴに至り、バルパライソ港より日本郵船『墨洋丸』に乗って北上、ペルーのカヤオ港に着き、ボリビアのインカ帝国の遺跡を訪ね、カヤオ港に戻って、さらに北上、メキシコのマンザニオ港を経てアメリカのロサンゼルスに立ち寄り、有名な映画の都ハリウッドを見学、サンフランシスコから一路太平洋を横断し、12年１月３日、『秩父丸』で横浜港へ到着した。この間６か月、ほとんど休息を取る暇もなく、たった２人で地球の４分の１を撮影し、そのうえ現地録音までやってのけたのである。（中略）撮影フィルムは約６万フィートに及び、編集に約半年間を費やし、長期ロケ『南十字星は招く』は完成、10月に東京日比谷公会堂において公開試写会を催し、大好評を博するとともに、常設館での興行も大盛況を収めた。」（『映像文化の担い手として』p32-33）

ミー坊と狼

［梗　概］

＊「今夜はお月見。兎のミー坊はお母さんの言いつけで、おばあさんに月見ダンゴを届けに行く。途中出会った狸と猿にダンゴをあげる。狼が出て来てやさしくするので、つい気を許しおばあさんの家へ行くと言う。先回りした悪狼はおばあさんの家の戸をたたく。ミー坊が来たと戸を開けると狼が立っているので驚いたおばあさん逃げ出し近くの木の穴にかくれる。ミー坊、狼がおばあさんに変装して寝ているのも知らず、狼に近づく。いきなり飛びかかって来た狼に驚いたミー坊、救いを求めると狸や猿がかけつけ、狼と闘うが狼もさるものへこたれない。最後に狸が化けた橋にだまされた狼は谷川へ落ちてゆく。悪狼のいなくなった兎の村では助けてくれた狸や猿も招待、盛んな月見の踊りが広げられた。『赤頭巾』の話のパロディー。」（『日本アニメーション映画史』P213-214）

＝　ム　＝

村の学校

［梗　概］

＊「琵琶湖畔の一小学校に於て十五年来実施されつゝあった労作教育とはどんな教育か、小学校が国民学校と改称された今日、我々は此の小村の学校教育に驚きを感ずると同時に多くの学ぶべき指針を示されるであらう。上野耕三自身のシナリオに一ヶ年の撮影日数をもって完成した横シネの良心的企画作品！」（『文化映画』昭16・9 p43 広告）

［解　説］

＊「実は『海女』で芸術的な構成を失敗したので、何としても、も一度やってみたく、結局芸術的な方法をとることにしたのであった。」「で、秋、冬、春といふ

構成をとった。尤もこゝまで来るのに三回書き改めたからこれは第四稿に当るわけだ。」（『文化映画』昭16・10 p57）

＊『映画教育講座』（四海書房　昭和17年刊）に「村の学校」のシナリオが掲載されている。（『映画教育運動三十年』p297-298）

＝　メ　＝

名選手のフォーム水泳の巻

［梗　概］

＊「高石のクロール、入江の背泳、鶴田の平泳、水谷のダイヴィグ等高速度撮影を交へて此等選手の華かなりし頃の特技及フォームを記録せる斯界の珍品。」（『教映ニュース』22号p15）

名選手のフォーム陸上の巻

［梗　概］

＊「和蘭安府の世界オリムピック大会に於て美事第一等の栄冠をかち得た織田選手を始め、沖田、中川、住吉外数氏の競技フォム。」（『教映ニュース』22号p15）

＝　ヤ　＝

大和

［梗　概］

＊「飛鳥、大和三山を中心に、さらに平城京跡、法隆寺、薬師寺、唐招提寺、奈良大仏、春日神社などを舞台とした天平文化を探り、天平時代の服装をした女性をモデルに樹下美人を再現するなど、緊迫した戦時下とは思われない、日本文化の伝統を紹介した文化の香りの高い作品であった。」（『映像文化の担い手として』p35）

［解　説］

＊「昭和十六年には建国記念二千六百年祭を盛大に遂行すべく、政府はいろいろと準備を進めていました。そのような時、昭和十五年春、近畿日本鉄道会社では奈良平野に散在する史跡、神社、仏閣を取材して歴史映画を作る事になりました。」（上野幸清『カメラをかついで五十年』p57-58）

＊「撮影は15年６月より翌年２月までの９か月を要した。16年12月４日、この映画はアメリカ映画と抱き合わせて封切られたが、封切り後４日目の12月８日、日本はアメリカと戦争に突入したため、敵国映画の上映打ち切りのとばっちりを受けて、『大和』も上映中止の運命をたどったのである。」（『映像文化の担い手として』p35）

＊「先ず最初に考へついた構成案は第一篇に全大和の総論或は序篇として神武天皇の御東征に始まり橿原に御宮居を奠めさせられる迄の経過と、紀元二千六百年に際して、橿原神宮を中心として、創業の昔を仰ぎ、聖代の栄えを讃ふ国民の至誠が如何に現れたかを叙して、これを仮に『奉頌健国』と題するものを一つ。それから第二篇は、其の後の奈良奠都に至る迄の歴史的経過を実際の場所及当時の文化の遺品に就て、叙述し『飛鳥より奈良へ』と云ふので纏めよう。その次に奈良の都の栄え、即ち天平時代の文化を説きたいのですが、それには、大和のみが誇り得る、当時の貴い遺構たる建築及び、仏像その他の美術が沢山ありました。そ

れを悉く採入れることは素より不可能ですから其中の代表的のものを選ばう。
それから建築仏像等に現れた文化の他に、其時代の服装を再現して生活様式としての文化を加へることにしようかと考へたのでした。所が、この風俗に関する部分が、猪熊氏の熱心な指導の下に意外な大物に発展しました。初め自分としては単に天平時代にのみ留めて、其頃の優にやさしい婦人達や白馬銀鞍の貴公子を偲ばしめる若人達の姿を、幻想的に出すといふ位に考へてゐましたのが、天平時代より更に進んで、平安時代、中世迄の風俗が、各種の生活様式の複原となって現れる事になったのです。そこで天平時代の建築、仏像、美術と宗教即学門の実績を示すものを薬師寺と唐招提寺に求めて之れを第三篇とし『西の京』と名づけました。それから天平時代より中世に至る迄の風俗は之を『古き都の俤』と題して第四篇として独立する事にしました。その次の第五篇には東大寺を持って来ました。東大寺には天平と鎌倉の素晴らしい遺品があります。丁度紀元二千六百年奉祝紀念として大仏供養も行はれました。これは実に大仏開眼以来第五回目の行事といふのです。又有名な『お水取』の行事も、特別の許可を得て、千二百年来伝はる神秘の法会の一端を撮影することが出来ました。霜氷る二月堂の夜、殆ど五日徹夜をつゞけて、この撮影に精進した気持は今でも忘れることが出来ません。
それから第六篇に『興福寺』を第七篇に『春日神社』を、そして最後に年代順から言っても『吉野』を第八篇に置いたのであります。以上大体に見積って優に二十巻をなすシリーズが出来上る訳で、先づ其方針で進行し現に今でも進んで居るのであります。」「さういふ工合に進行して居ります中に、この調子では『大和』全体の完成はいつ迄掛るか判らない。早く何とか纏めて世に出したいと云ふ欲望が製作者側として起って来ました。（中略）そこで本年（編者注：昭和16年）四月頃までに出来上って居った『飛鳥から奈良へ』と『西の京』及『東大寺』と『吉野』とを組合せ、それに今の『古き都のおもかげ』を加へて、とにもかくにも、『大和』と題して世に出さうといふ事に相談が決ったのです。但し『西の京』『東大寺』はこれだけで七巻になりますから、全部を入れる訳には行かないので、その一部を抜萃して『天平の文化』とする事にしました。かくして『大和』全四篇、即ち第一篇『飛鳥から奈良へ』第二篇『天平の文化』第三篇『古き都のおもかげ』第四篇『吉野』計七巻といふものが出来上ったのであります。さういふ経過をとりましたのでありますから今回世に出しました『大和』といふ作品は、尠くとも八篇二十巻にならうといふシリーズの中から、第一回の発表として其一部を纏めたものでありまして、之に依って『大和』の全貌を尽したものなどとは夢にも思って居りません。」（青地忠三「『大和』製作報告」『文化映画』昭16・10 p32-34 ）

＊「第四篇はこの二人（編者注：猪熊兼繁氏、吉川観方氏）の方の熱心を極めた協力によって出来上ったものでありまして、其時代々々に応ずる服飾は、どれ一つとして正確な故実に拠らぬものはないのであります。そうして殆んど全てがこの御両氏の所蔵品と、某々家に秘蔵せられる品々を借り出したのであります。（中略）以上の服装をつけた人物はといふと、これは全部素人を採用しました。服装の用意も容易ならぬことではありますが、この人間の狩り集めが更に容易ならぬ難事でありました。之にはカメラの上野行清氏が協力しました。猪熊氏と上野氏

が大阪の街、京都の街を歩き廻って、天平式の顔の女を物色し、通りすがりの婦人を片っ端からジロジロ眺め、『これはいゝ』『あれは駄目』と品さだめして、これはと思ふ令嬢の後を尾行して、注意を受けたなどの挿話もある位です。奈良中学の生徒から重役の令嬢から其他ありとあらゆる人々をかり集めて、さて撮影当日午前八時集合、ホテルの二三室を借切にして、猪熊氏、吉川氏の指揮でお化粧や衣裳の着附けが始まる。対手が素人のこと、あゝでもない、こうでもないと、歩き方迄教へてゐるうちに、午後三時頃になる。現場へ繰出して、いよいよ撮影開始がもう四時である。時によると、いざクランクとなって雨がパラつく。損料だけでも一着百円以上の衣裳が濡れては大変、あはてゝ雨宿りするなどの騒ぎがあった、其頃の当事者の苦心は実に大変なものでありました。」（青地忠三「『大和』製作報告」『文化映画』昭16・10 p33）

＊『文化映画』第３巻６号（昭和15年６月１日）の「文化映画製作配給所巡り」p41 によるとこの時期、「大和の二千六百年史」のタイトルで製作が進行中であった。

大和巡り

［梗　概］

＊「尋常小学読本巻十『大和巡』によって撮影編輯したもので、猿沢池、興福寺、帝室博物館、春日神社、三笠山、春日山、若草山、東大寺、大仏、法隆寺、橿原神宮、吉野山と数多い名所古跡を順序よくもち出してゐる。」（『活映』66輯p52 ）

山の便り、海の便り

［梗　概］

＊「中学にゐる二人の兄さん達は日本アルプスへ出かけました。道子姉さんを総指揮官に妹達はみんな片瀬へ出けました。お父さんとお母さんは東京で御留守番、兄さん達の山の便りと姉さん達の海の便りが素敵な絵になって現はれます。さて、山がいゝか、海がいゝか、山と海の競争、審判官は皆さま方が、どうぞ…」（『大毎フィルム・ライブラリー目録 』p81 ）

＝　ユ　＝

雪

［梗　概］

＊「本課中の雪について、その生成、形状及降る状態等を精密巧妙な線画と綺麗な実写によって解説したもの。」（『教映ニュース』22号p16 ）

＊「精密巧妙な線画と、鮮麗なる実写とにより、雪の形状や種類を科学的に興味深く説明し、之に美しい雪景色、交通、運動等雪の人事的交渉を面白く添へたるもの。」（『教映ニュース』24号p13 ）

雪国順礼

［梗　概］

＊「暖い都を後にして雪の裏日本の風情をたづねて見ることも面白いことであらう、積雪深い町々を北海道、秋田、長岡、高田と経巡って集めた雪の叙情詩小学校向、一般向。」（『大毎フィルム・ライブラリー目録 』p7）

雪煙

［梗　概］

＊「スキーの権威者各務自身出演、各種テクニックを詳細に解説したスキー指導映画」（『日本教育映画発達史』p123）

＊「さて本篇では美しい冬山を描きながら、一般スキーの基本技術から高級技術に至る迄を、平地行進、登行、直滑降、斜滑降、横滑り、全制動廻転、半制動廻転、L・S・T、テレマーク、クリスチャニア、跳躍廻転の順序で逐次詳細に解説してゆく。」（『日本文化映画年鑑』p229）

雪と岩へのあこがれ

［梗　概］

＊「日本アルプスの花形、槍・穂高の豪壮雄偉なる姿を紹介せるもの。」（『教映ニュース』26号p18）

＊「春陽四月の日本アルプス穂高、槍の峻峯は未だ氷と雪に被はれてゐる。身を一本の綱に託して嶺から嶺へ渉り、或は一面氷の岩層を這ひ、遂に穂高を縦走し、槍の登攀までを収めし実写映画である。中、小学生向。」（『大毎フィルム・ライブラリー目録』p7）

［解　説］

＊「登山技術上の指導は日本山岳会員角田吉夫氏の監督のもとに行はれ活躍する人々は黒田鎮夫氏夫妻および法政大学山岳部員鈴木、柴田、島田の三君である。さらにこの映画撮影についてかくれたる助力をあたへた人達に飛田上宝村の今中、中畠をはじめ十五名のすぐれた山案内者をあげねばならない」（『映画教育』41輯p37）

＝　ヨ　＝

妖怪退治

［梗　概］

＊「子供達が妖怪におびやかされる。然し勇を奮って結局退治するという喜劇」（『教映ニュース』21号p14）

＊「少年義勇団のものが奇怪なる家で妖怪におびやかされるがそれは皆電気仕掛のものであった。」（『教映ニュース』26号p18）

＊「夏の夜も暮れた午後八時、少年の一隊は馬車を駆って、雷雨の中を、世にも恐ろしい妖怪屋敷へ。一つ目小僧や舌長小僧、大入道、開かずの扉さては妖火を吐く怪獣、骸骨ダンスなどにとり巻かれて、惨々な目に遭ふのでした。」（『フィルムライブラリー目録』4輯p3）

［解　説］

＊『日本教育映画総目録』p117、『映画検閲時報』第12巻p321よると、本作品は米国パテー社製作とされており、同名の外国映画（の改作）の可能性があるので注意が必要である。

揚子江

［梗　概］

＊「日本軍管制下に入った揚子江全域に添って、沿岸の風物を七巻に記録」（『日本教育映画発達史』p123）

＊「そこで先づ我等は此の中支の大動脈の主要な部分、上海、南京、九江、漢口等を上空より眺めつゝ、遠く岳州に至り、次いで洞庭湖を始め城陵滅、新堤壁州等の地を訪れ、続いて武漢三鎮に赴き、南京に至り、上海に到着、こゝに於て我が警備区域虹口一帯の姿を始め、今猶惨たる跡の残る北方面蹟戦、陸戦隊本部、その警備状況等を眺めた後、所謂河向ふの英仏警備区域の現状、最後に江上に厳として浮ぶ出雲の威容に接し、新東亜建設に参ずる我等の覚悟を新にする。」（『日本文化映画年鑑』p271）

［解　説］

＊「次いで昭和14年、南京、漢口を攻略した日本軍は揚子江を管制下に治めたのを契機に、揚子江全域に沿って沿岸の風物、戦果の記録映画『揚子江』全７巻の企画が決定し、２、３月ごろから撮影が開始された。カメラマンは矢作保次、喜多村幸次郎が当たり、監督は三枝信太郎が担当し、主に中支が撮影舞台となった。」（『映画文化の担い手として』p35）

＊小宮多美江氏によると、「揚子江」の音楽は、後に「風景画帳よりの素描」というオーケストラ用の小品になっている。なお、安部幸明氏は本作品の作曲、指揮も担当している。

弱い者の戦術

［梗　概］

＊「動物の保護色、擬態等の自然保護法や各種の自己防禦術等の実況を撮影集成したもの」（『活映』67輯p53）

［解　説］

＊『日本教育映画総目録』p65 によると本作品はドイツのウーファ社製作となっており、外国映画（の改作）の可能性があるので注意が必要である。なお、『映画検閲時報』第12巻p341、『日本教育映画総目録』p63 に次の作品（原題：プロテクション、オプ、ザ、ウィーク）が掲載されているが、本作品との関連は不明である。

弱者の武器（独国、ウーファ社製作）

昭和６年６月４日検閲（東和商事会社申請）１巻／282m　実写、教育

＝　ラ　＝

ラプラタの沃野アルゼンチン

［梗　概］

＊「世界一のイグアスの滝、パンパスの曠原、大農業主伊藤氏の農園、ガウチョの踊り、六千人の吾が同胞の活躍、麗しの空首府ヴエノスアイレスの風景、風俗等見るべきものが多々あります。」（『教映ニュース』30号p22）

［解　説］

＊「本映画は前篇智利と同様『南十字星は招く』の抜萃篇である。」（『教映ニュース』31号p22-23）

蘭印探訪記

［梗　概］

＊第一部　新しき蘭印

「蘭印の首都バタビヤの朝は道路掃除の人夫の出動にはじまる。やがて蘭印の豊富な物資を輸出する開港場スラバヤ行の朝の急行列車がバタビヤを発する頃、大王椰子の並木を縫ってアスファルトの舗道を自転車の洪水、バタビヤのラッシュ・アワーだ。赤道直下の街の日中は暑いのですべての物事は朝の涼しい間にしなければならない。学校も午前中だけ、商店も昼は休み、軍隊も訓練は朝の間だけだからバダビヤ師団の軍楽隊が勇ましく街頭行進を行ふのも午前八時から九時迄の間だ。まひる時となれば外人は皆自宅へ帰る。昼寝をするためと水浴する為だ。贅沢なプールも設けられて、快適な午後をすごす。しかしそういった設備を持たぬ土民達は真紅に濁った運河の水に涼をとる。夜ともなれば何処からともなく大道芸人が現はれてガメラン音楽に合せて南国の踊りを踊る。さて蘭印の無尽といはれる物資は何々であるか、石油、錫、鉄の地下資源の外に、ゴム、砂糖、紅茶、規那等の農林産業が企業化されてゐる。近年までは蘭印は原料供給の国として生きて来た。ところが最近はこの原料をそのまゝ製品にする工業が勃興して来た。その為に土民が安い賃銀で白人に動員されてゐる。東亜の盟主たる我々はこの現状をこのまゝ見過してゐていゝだらうか。」（『文化映画』昭16・2 p62）

＊第二部　古き蘭印

「白人の征服に委ぬる以前、蘭印の島々には古い歴史があった。ボルボドールには仏教の盛だった頃の遺跡があり、又土民達が伝統を誇るジャワ更紗の芸術もある。それにもまして我々の注目を惹くのは彼等土民の歴史を物語りに仕組んだ、影絵人形である。そしてその影絵人形を芝居に仕組んだ舞台劇である。そしてその舞台劇に登場する人形の演技には宛も我が歌舞伎芝居の所作事に似た趣もあるといふ不思議さ。古への島々に君臨してゐた王朝も既に影を失ったがその後裔が今尚守るジョクジャとソロの王領地。昔ながらの封建の制度も残り、果ない宮廷生活を営んでゐる。その宮廷の奥深く美女が裳裾をひるがへして舞ふスリムピーの踊りはまことに絢爛豪華である。そして最も壮麗なガメラン音楽がこゝでは奏でられる。」（『文化映画』昭16・2 p62）

＊第三部　夢の蘭印

「虐げられた生活に萎縮してゐる土民達にも夢がある。土民の子らが竹で作ったアンコロンといふ楽器に合せて湖畔に踊る。あたかも琉球の唐手術にも似た踊りはそれが月明き夜ならば尚更興趣が深い。山羊を闘はせて遊ぶ土民達、曾つての日、蕃社と蕃社との間の争闘に用ゐられたであらう弓矢を今は競射にのみ興じる彼らの夢は深い。殊に世界の楽園といはれるバリー島には昔ながらの奇習が数多く残されてゐる。バリー島の女達が米をつく舟形のうすは我が国でも見られるやうなものに近い。お伽噺に出てくるお月様の中にゐる兎が団子をつく時に使ふ杵

も此処には残ってゐる。我国のお盆によく似たお祭りもある。よく村の社の社前に輪になって何事かを祈念しながらしきりに、呪文をとなへる男達の群もある。彼らの祈りは何であらうか、やがて訪れんとする東亜共栄圏の黎明を待つ祈りでもあらうか。とまれこの南の海の彼方の土民達に真に生きることの喜びを与へてやることは、東亜の盟主としての我々の上に与へられた役目ではないだらうか。」（『文化映画』昭16・2 p62 ）

［解　説］

＊「ガメラン音楽やスリンピーの舞踊など珍らしい風俗が豊富に採取され、興行的にも大成功だった。」（『日本教育映画発達史 』 p144 ）

＊「この映画は李香蘭（元参議院議員大鷹淑子）の歌謡ショーとの並演であったこともあり、日劇には長蛇の列ができた。（中略）『聖戦』『揚子江』にこの『蘭印探訪記を加え、横浜シネマの戦記物３部作と称されたが、特に『蘭印探訪記』が優れた作品という評価を得ている。」（『映像文化の担い手として 』p35 ）

＊『文化映画』第３巻11号（昭和15年12月１日）の「文化映画製作配給所巡り」p85 によればこの時期、「蘭印を往く」（仮題）のタイトルで製作が進行中であった。同号によると、「演出松村太郎、撮影矢作保次両特派員は蘭領東印度諸島に渡って既に半歳、各島の人情、風物、産業面をあます所なくカメラに収め二万余呎のフィルムを携へて近く帰京の筈。発表は明春の予定。」となっている。

＊「世界の宝庫と謳はれて無尽蔵の天然資源を包んでゐるこの蘭印の真の姿を知るために大阪毎日・東京日日新聞社の松村、矢作特派員はオランダ船に身を托し、同時録音映画撮影機を携へて、はるか南の海を越えたのであった。そして蘭印の首都バタビヤの土を踏んだ両特派員が先づ訪れたのはオランダ蘭印総督府チャルダ・ファン・スタルケンボルグ氏の官邸であった。かくて戒厳令下の蘭印の全貌を国民に伝へる両特派員の活躍は始まる。」（『文化映画』昭16・2 p61-62）

＝　レ　＝

レヴュー・春

［梗　概］

＊「野にも山にも、里にも春が来た。遠くの山の雪も消え、山川のほとりには花が咲き、木のほらや土の下に冬ごもりしていた獣達は一時にとび出して来て、楽しく歌い踊る。黒ネコのおばさんは、川へ洗濯に行き、流れて来た桃を切ると、いきなり鬼が飛び出した。白熊君が、釣りをしていると、釣針に掛った小魚を少し大きい魚が呑み、それをさらに大きい魚が呑むというように、順々に呑んだ大魚を釣り上げ、喜んでいると順々に落ちてしまった。」（『日本アニメーション映画史』P204）

＊「春が来た春が来た　お山の子供たち　みんな出そろって　唄ひ踊り　そしてほがらかなナンセンスを振りまきます」（『映画教育』42輯広告）

［解　説］

＊「いくつもの短い話をつないだオムニバス形式で、日本漫画としては、珍しい一貫した筋を持たない、ナンセンスギャグ漫画。」（『日本アニメーション映画史』P204）

＊「この頃の言葉で言へば正しく漫画オンパレードです　村田安司漫画一流のナンセンス　題して漫画レヴュー春！」（『映画教育』40輯広告）

＝　ロ　＝

驢馬

［梗　概］

＊「農夫の親子がロバを市場に売りに行く途中、道行く人々の言葉に従い、ついにそのロバを川に落してしまう。自分に確かな考えがなく他人の言葉を無暗に信頼するなというテーマを動画にしたもの。」（『日本アニメーション映画史』P204）

＝　ワ　＝

若き空の勇士

［梗　概］

＊「空の武勲にあこがるゝ少年航空兵が入隊より愈々栄ある空の勇士として活躍する迄を描き出した一篇、本課の加賀に乗組める兄さんの生活をさながらに表はしてゐる。」（『教映ニュース』22号p15 ）

和具の海女

［梗　概］

＊「志摩半島和具町における海女たちの勤労生活を、絵画的な構図と同時録音で、いわゆる抒情の中に真実を捉えた力作。当時としては珍らしい水中撮影も効果をあげている。」（『日本教育映画発達史 』p155）

［解　説］

＊『文化映画』第３巻６号（昭和15年６月１日）の「文化映画製作配給所巡り」p40 によると、この時期、「海女の生活」のタイトルで撮影が進行中であった。

＊「彼（編者注：上野耕三氏）は『働く女の典型としての海女』を描こうと思っていたと述べていたが、志摩半島の真珠母貝採取に従事する海女の一日の生活を素直に記録したもので、当時、理屈っぽい、解説的な記録映画の多かったなかに、みずみずしい好篇であった。なお、スペクタクルな水中撮影の成功は作品の柔らかい感触をたすけていた。」（『日本ドキュメンタリー映画全史』p99-100 ）

＊「『和具の海女』を作った時も、海女といへば、水中をあたかも人魚のやうに泳ぎ廻ってゐる、なんとなくエロがかったものとしての通念がありさうなので、それをむしろひっくり返へして、働く女の典型がこゝにあると云ひたかったのである－。」（『文化映画』昭16･10 p57）

我は海の子

［梗　概］

＊「海辺に育った児の懐しい過去の追想と、成長後に於ける希望と覚悟に勇躍せる感情を表はしてゐる。」（『教映ニュース』20号p15 ）

＊「尋常小学校読本巻十一第十九課『我は海の子』を、極めて美しく巧みに力強く表現したもので、画面の転換も気持よい美しい映画詩である。『丈余のろかい操

りて、行手定めぬ波まくら、百尋千尋海の底、遊びなれたる庭広し』あたりは特によい。」（『大海フィルム・ライブラリー目録 』p6）